

2463

CZ  
1113  
17-01

# 法令類纂

第二號

明治二十三年二月分

宮城縣庶務課

特30  
201

CZ  
1113  
17-01

一本書ハ每月初其前月中奥羽日々新聞紙官報縣報欄内ニ掲載シタル諸法令ヲ編纂スルモノトス  
但告示諸達中一時ニ止マリ後來ノ參照ヲ要セサルモノハ其要領ヲ目錄欄内ニ摘記シ圈點ヲ  
冠シテ之ヲ區分シ別ニ全文ヲ掲載セス  
一本書ハ從來例規目錄ニ從テ類目編纂セシト雖ヒ時日甚タ遷延ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ唯タ其  
目錄ノミ類別シ其下ニ丁數ヲ付シ本文參照ノ便ニ供ス  
一何指令照會通知并ニ報告類ト雖ヒ必要ト認ムルモノハ亦タ其部類中ニ併セ録シテ以テ參考ニ  
唯供ス

法令類纂目錄 明治廿三年二月分

宮廷

宮內省告示 第一九號 二月廿九日 皇女御誕生

全八號 二月三日 皇女御名

朝儀

本縣告示 第七二號 二月七日 紀元節參賀

憲法

閣省官制

勅令 第二四號 二月四日 文官試驗ノ件

全九號 全一號 郡區長任用ノ件

地方官制

七丁 八丁

九丁

官吏賞罰

官吏雜規

帝國議會

府縣會

本縣告示 第五二日 本縣會議員選舉會開會

全四號 七二日月 名取郡縣會議員補欠選舉會開會

全八號 十三日 縣會議員選舉會中桃生郡小野分會及本吉郡氣仙沼分會開會期日

市町村制

布令式

請願 建白

印章

遞信省告示 第十四號 廿九日 帆船伊豆丸檢査証書紛失

全十七號 一廿日 帆船玉島丸檢査証書紛失

全廿四號 十二日 西洋形帆船新雄阿寒丸免狀紛失

全廿六號 廿二日 貨幣封入郵便物取扱見合印鑑紛失

全廿八號 廿二日 全

服制

出版

內務省告示 第五號 廿九日 あたりやの花娘ト題スル出版物發賣頒布禁止

集

會

度量衡

種族

勳位

勅 十二日

金鷄勳章創設

四十三丁

勅 十一日

金鷄勳章ノ等級製式佩用式

六十五丁

賞 給

恤

法 五號 七二

備荒儲蓄法中改正

九丁

陸軍制

勅 十二日 十二日

陸軍武官々等表中追加

七十二丁

海軍制

勅 七號 三二

第五海軍區鎮守府位置設定

六丁

徵 兵

海軍省令 一一二

海軍志願兵徵募細則中改正

一丁

陸軍省令 四二

廿二年告示第十七號志願者心得並ニ取扱手續中追加

本縣告示 十二日

海軍ニ役志願書差出期限延期

全訓令 全

海軍志願兵徵募事務取扱手續中二月廿日ヲ三月廿日ト改定

四十三丁

豫後備 附歸休

海軍省令 廿九日

海軍豫備兵々籍

一丁

五

四

陸軍省告示 第七二 日月 陸軍豫備後備ノ將校同等官及下士兵卒ノ兵籍

兵 學

勅令 第十五號 十二月 海軍在外國學生學資金規則

七十五丁

兵制雜規

勅令 第六號 三月 海軍下士服役中改正

六丁

海軍省告示 第四號 四月 本年二月水路部ニ於テ使役スヘキ工夫徵募

勅令 第十三號 十二月 陸軍下士以下服制中改正

七十三丁

全 第十四號 全 海軍糧食條例

全

海軍省告示 第五號 十二月 海軍各應物品購買賣却規則

陸軍省告示 第三號 十二月 觀音崎下ノ關及對島ヘ工兵方面支署設置

戒 嚴

徵 發

海軍省令 第三號 十二月 海軍志願兵家族扶助金支給規則中改正

軍人恩給

軍人刑罰

法律 第十二號 十二月 海軍刑法中追加

九十二丁

文部官制

大學校

師範學校

中學校

文部省告示 第一六二 日月 第三高等中學校醫學部ニ藥學科附設

小學校

各種學校

遞信省告示  
第十五號

一月一日

東京商船學校規則中改正

文部省告示  
第二二號

二月六日

大坂市立大坂商業學校ヲ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ム

圖書館

學制雜規

衛生

第縣第十號令

二月十八日

流行性感胃インフルーエンザヲ診察醫師届出方

八十一丁

第縣第十一號令

二月廿一日

インフルーエンザ流行ニ付注意  
圓筒茶溜下水取締規則中仙臺石卷改造期限延期

八十七丁

病醫院

醫事

藥劑

內務省告示  
第三號

二月廿九日

廿三年第一回藥劑師試驗舉行地及期日

三丁

第縣第四號令

三月五日

藥種商並製藥者取締細則

五丁

全第五號

全

藥種商並製藥者免許鑑札願出期日

八十丁

內務省告示  
第七號

二月十四日

藥劑師試驗人心得

七十七丁

第縣第九號令

二月十七日

二十二年十二月縣令第六十七號中改正

八十四丁

本縣第九號示

二月廿二日

廿二年法律第十號中監視員ノ携帯スベキ証票

九

內務省告示  
第四號

二月廿九日

沖繩縣那覇若狹町村鎮座波上宮官幣小社ニ列セラル

九

全 六 號 八 二 日 月

長野縣信濃國戶隱神社國幣小社ニ列セラル

宗 教

葬 儀

忌 服

縣郡市町村境界

地 所

山 林

農商務省訓令 第 九 號 廿 二 日 月 從來官有山林原野ヲ開墾牧畜ノ爲メ貸下ケ成功ノ後拂下シヘキ豫納ノ分届出離形

百五丁

全 三 十 號	全	全	全 廿 九 號	全 廿 五 日 月	全國全郡北大濱村ニ北大濱郵便局設置
全 廿 七 號	全 廿 一 日 月	三河國碧海郡西端郵便局廢止			
全 廿 三 號	全 廿 四 日 月	土佐國吾川郡川口郵便局移轉並ニ改稱			
全 廿 二 號	全	石狩國空知郡瀧川村ニ瀧川郵便局設置			
全 廿 一 號	全 廿 二 日 月	町村制實施ニ付郵便物差出人心得			
全 十八 號	全 六 日 月	常陸國西茨城郡羽黒郵便局ヲ岩瀬郵便局ト改稱			
全 十六 號	全 一 日 月	大和國宇陀郡萩原郵便局外一局改稱			
全 十一 號	全	金貨貯金特別預方ノ儀廢止			
全 十 號	全	七十六丁			

郵 便 電 信

驛 遞

鐵 道



第三十一號 全國全郡西端郵便局貯金事務ヲ北大濱郵便局ニ移ス

船車

河港 道路

第九號 十二月 水道條例

鐵道

燈臺 浮標

通信省告示 第六 十二月 橫濱築港工事中東水堤及北水堤築設線ノ相對スル兩極端ニ燈船二艘碇置

第二十號 全 肥後國宇土郡三角港北口ノ西岸ニ燈臺建設

農商工

本縣訓令 一二 一月 農事調査方

第七號 令 十二月 四日 蠶糸業組合設置規程更正

八十丁 四十三丁

農商務省令 十二 七月 廿年十二月農商務省令第四號茶業組合規則第七條中東京ヲ全國便宜ノ地ト改ム

雜業

會社

大藏省告示 六 十二月 鶴岡第六十七國立銀行支店ヲ山形縣酒田ニ設置

九十三丁

全第八號 廿二月 八幡第四十七國立銀行支店ヲ東京ニ設置

博覽會

牧畜

漁業 採藻

全第十一號 廿六月 大聖寺第八十四國立銀行東京ニ移轉及支店設置

鳥獸獵 威銃

第縣六號令	五月五日	鳥獸獵免狀ヲ受ケ其期限内族籍姓名及住所ヲ變換シタル者届出方	五丁
-------	------	-------------------------------	----

國稅

第縣三號令	三月二日	地租條例ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願届書式	二丁
第法四號律	全	北海道及町村制ヲ施行セザル島嶼ノ國稅徵收ノ件	二丁
第本縣三告示	四月二日	桃生郡飯ノ川村ニ印紙賣捌所増置	六丁
第法八號律	八月二日	北海道水產稅則中改正	四十二丁
第本縣六告示	十二月二日	地目變換地價修正檢查區域	
第大藏省三號令	十二月二日	國稅徵收法施行細則改正	五十丁
第本縣八號令	十二月五日	廿二年(六月)縣令第五十一號末項但書削除	七十九丁
第大藏省四號令	十二月一日	廿三年度經常歲出內國稅徵收費及臨時歲出土地臺帳調製費科目	百五丁
第本縣七號令	十二月五日	市町村ナシテ徵收セシムル國稅ニ關スル件	百十三丁
第內務省六號令	十二月六日	廿三年度全省所管歲出科目府縣ノ款廳費ノ項中標本ノ一節新設	百十五丁

地方稅

町村稅

賦金

國費出納

第農商務省訓令	十二月二日	出納官吏任命規程	
第大藏省七號令	全	金庫開庫時間	
第法十一號律	十二月五日	廿二年度會計特別整理ノ件	七十八丁
第農商務省訓令	全	當省所管免許料手数料鑛山借區稅徵收順序	八十一丁
第大藏省七號令	十二月七日	廿三年度以降國稅滯納處分法施行細則第四號五號樣式及納付書	八十丁
第文部省三號令	十二月九日	文部省主管教科用圖書檢定手数料學校教員學力試驗手数料及全免許狀授與手数料收納ノ事務委任	九十丁

大藏省訓令 第八號	全		一定ノ納期アル各種ノ國稅ニシテ其期日內皆納ニ至ラサルモノ報告書式	八十四丁
內務省訓令 第五號	廿二	日月	藥用阿片受拂手續中一項目追加	八十八丁
大藏省訓令 第九號	全		印紙類會計官吏身元保証金取扱方	八十九丁
第十號	全		地租ニ關スル諸帳簿樣式更正	全
第十一號	廿二	一月	集合仕拂命令ニ添付スヘキ各債主ノ金額氏名表書式	九十丁
第十三號	全		十九年大藏省訓令第三號廢止	百五丁
第十四號	全		廿二年度歲入豫算ニシテ廿三年度ニ於テ收納セシモノ 整理取扱方	八十七丁
第十五號	廿二	四月	本年二月全省令第四號第一條第二條刪除	百十三丁
地方稅出納				
町村稅出納				
雜部金出納				
本縣訓令 第三號	廿二	二月	二十三年度歲入科目改正	

大藏省訓令 第十二號	廿二	一月	廿三年度以降恩賞諸錄ノ仕拂取扱方	九十三丁
國債				
大藏省告示 第五號	廿二	七月	七分利付金錄公債元金償還ノ爲メ抽籤執行	九十二丁
第九號	廿二	一月	起業金錄公債証書ヲ整理公債証書ト引換	全
第十號	廿二	四月	整理公債証書發行高	全
貨幣				
大藏省訓令 第七號	廿二	六月	九年甲第十二號布達ニ係ル變造紙幣ハ記録局ヘ送納	百十五丁
警察				
勅令 第十號	廿二	四月	巡查奉職滿五年以上ノ者ヲ警部警部補ニ任用ノ件	九丁
縣令 第十二號	廿三	六月	仙臺警察署田町分署設置	百十四丁
本縣告示 第十號	全		仙臺警察署田町分署開署期日	全
訴訟				
法律 第六號	八二	八月	裁判所構成法	十丁

全七號	重罪振訴豫納金規則	四十一丁
法律十二日	市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件	四十九丁
治罪法		
刑法		
銃		
囚獄		
外交		
雜類		

農務省令	明治六年工部省第五號達全十七年同省第五號達及同十	七十七丁
本縣訓令	八年同省第三號達ヲ廢止	
第四號	宮城縣報告例	百十三丁

○海軍省令第一號

明治廿三年一月廿九日

海軍豫備兵ハ現住地ノ属スル海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府ノ兵籍ニ編入ス

○海軍省令第二號

明治廿三年二月一日

明治二十二年(六月)海軍省令第五號海軍志願兵徵募細則中左ノ通改正ス

第三條中「三月一日」ヲ「四月一日」ト改ム

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

鎮守府司令長官ハ前項ノ配當表ヲ作り第三條第一項ノ志願人員表ト共ニ海軍省ニ送附ス可

シ

第五條中「四月一日」ヲ「五月一日」ト改ム

第八條中「十五名」ヲ「十名」ト改メ左ノ一項ヲ加フ

志願人ノ數一地方應管轄地ヲ通シテ十名ニ滿タサルトキハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス

第十二條中「五尺三寸」ヲ「五尺二寸」ト改メ「五尺二寸」ヲ「五尺」ト改ム

第十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

合格者ノ數採用スヘキ人員ニ滿タサル地方アルトキハ其不足人員ヲ他ノ地方ニ於テ配當人員ニ増加シ徵募スルモノトス

第二十三條ヲ「第廿四條」トシ「第二十四條」ヲ「第二十五條」トシ「第二十五條」ヲ「第二十六條」

トシ附則ヲ廢シ左ノ一條ヲ加フ

第二十三條 徵募官ハ一地方廳管轄地ノ募兵事務終ルコトニ志願兵検査表ヲ作り募兵事務完結シタルトキハ志願兵總検査表ヲ作り海兵團長ヲ經由シテ鎮守府司令長官ニ出スヘシ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍省ニ送附ス可シ

○縣令第三號

明治廿三年二月三日

明治二十二年大藏省令第十九號第十五條ニ依リ地租條例中當廳ニ差出スヘキ願届書式ヲ定ムルヲ左ノ如ク

但明治十七年(五月)甲第三十五號布達其他本令ニ抵觸スルモノハ廢止ス (願届書式別冊)

○法律

明治廿三年二月三日

朕北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

法律第四號

第一條 北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼(東京府管轄小笠原島伊豆七島ヲ除ク)ニハ明治廿二年(三月)法律第九號國稅徵收法中第六條第七條第十條第十四條乃至第十九條ノ外他ノ條項ヲ施行セス此法律ニ據リ國稅ヲ徵收ス

第二條 北海道ニ於テハ水產稅ハ郡區長ヨリ水產物營業人組合ニ對シ其他ノ國稅ハ郡區長ヨリ戸長ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

町村制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ島司ヨリ戸長ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

第三條 水產物營業人組合ハ其組合中ノ水產稅ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付スヘシ

第四條 戸長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製テ各納シ稅人ニ發スヘシ

第五條 各納稅人ハ稅金ヲ戸長又ハ水產物營業人組合納稅委員ニ拂込ニ其領收證ヲ受クヘシ

第六條 戸長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ其領收シタル稅金ヲ金庫ニ拂込ニ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ捺印ヲ受クヘシ

第七條 戸長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滯納ノ稅目金額及滯納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ

第八條 戸長ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

水產物營業人組合ハ過誤怠慢ニ依リ其取纏メタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任ス

第九條 戸長又ハ水產物營業人組合ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ稅金ヲ亡失シタルトキハ北海道廳長官若シハ縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十條 此法律ハ明治廿三年四月一日ヨリ施行ス

○縣令第四號

明治廿三年二月五日

藥種商並製藥者取締細則ヲ定ムコト左ノ如シ

但本年三月一日ヨリ施行ス

藥種商並製藥者取締細則

第一條 藥種商又ハ製藥者免許鑑札ヲ得ントスルモノハ族籍氏名年齢等ヲ詳記シタル願書ニ履歴書ヲ添ヘ町村役場及郡市役所ヲ經由シ縣廳ニ願出ヘシ

第二條 藥種商又ハ製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ本籍氏名ノ變換等ニ由リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルキハ十日以内ニ其事由ヲ記シ前條ノ手續ニ據リ鑑札ノ書換ヲ縣廳ニ願出ヘシ

第三條 藥種商又ハ製藥者他市町村ニ轉籍寄留シタルキハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ縣廳ニ願出ヘシ

他府縣ニ轉籍寄留スルキハ本條ノ手續ニ據リ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ

第四條 藥種商又ハ製藥者廢業若クハ死亡セシキハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ

第五條 一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツキハ其分ナル容器ニ製造者(會社ナレハ其所在地名及社名)若クハ外國藥品引取人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第六條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付シタルモノハ此ノ限ニアラス

第七條 藥種商製藥者ニ於テ使用スル封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第九條 第一條第三條第二條第七條第十一條ヲ除キ其他ノ各條ニ違背シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營ムキハ十日以内ニ第一條ノ手續ニ據リ縣廳ニ願出ヘシ

第十一條 本則施行以前ニ於テ内務省ヨリ製藥免許證ヲ受ケタル者ト雖モ本則ニ據リ縣廳ニ願出テ更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

明治廿三年二月五日

○宮城縣令第五號 從來ノ藥種商及製藥者ハ本年(二月)縣令第四號藥種商並製藥者取締細則ニ據リ來ル二月廿日限

リ縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ 明治二十三年二月五日

○宮城縣令第六號 鳥獸獵免狀ヲ受ケタル者其獵期中族籍姓名ヲ變換シ又ハ住居ヲ移轉シ其他異動アルトキハ左ノ手續ニ依リ願出シヘシ

一族籍姓名ヲ變換シ又ハ住居ヲ移轉シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ  
二他管ヨリ寄留セル者ニレテ本管ニ復歸シ又ハ管内外ヲ問ハス轉籍若クハ寄留シテ引續キ銃獵  
スルモノハ甲乙兩地ノ警察署又ハ分署(郡役所ニテ取扱フ所ハ郡役所)ニ届出ツヘシ

三第二項ノ場合ニ於テ該免狀ハ獵期後二十日以内ニ當初受取タル官衙ニ返納スヘシ

○宮城縣告示第三號 明治廿三年二月四日

桃生郡飯野川村ニ印紙賣捌所一ヶ所ヲ増置ス

○勅令 明治廿三年二月三日

朕海軍下士服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六號

海軍下士服役條例中左ノ通改正刪除ス

第二條第二項

卒ノ服役年數ヲ通算シ現役十二ケ年以上十六年未滿ノ者ハ現役ヲ通算シテ滿十六ケ年ニ至ル  
マテ豫備役ニ服セシム

第九條 刪除

○勅令

明治廿三年二月三日

朕第五海軍區鎮守府位置設定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七號

第五海軍區鎮守府ノ位置ヲ北海道膽振國室蘭郡室蘭港ト定ム

○勅令

明治廿三年二月四日

朕文官試験ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八號

第一條 前ニ委任文官ヲ勤メタル者及滿三年以上判任文官ヲ勤續シタル者ハ明治二十年勅令第  
卅七號ニ依リ高等試験ヲ受クルコトヲ得

第二條 明治二十年勅令第卅七號ニ依リ高等試験ヲ受ケテ合格シタル者ハ文官試験局長官ヨリ

高等試験合格證書ヲ付與スヘシ

高等試験合格證書ヲ得タル者ハ官廳ノ需要アルニ當リ高等官試補ニ任スルコトヲ得

第三條 滿三年以上委任文官ヲ勤メ退官シタル者及滿五年以上判任文官ヲ勤メ退官シタル者ハ  
試験及事務練習ヲ要セスシテ前官同等若ハ其ノ以下ノ文官ニ任スルコトヲ得

第四條 奏任又ハ判任ノ文官ヨリ轉任シタル官立學校ノ教官及府縣立學校ノ職員ハ更ニ前官同  
等若ハ其ノ以下ノ文官ニ轉任スルコトヲ得

第五條 各官廳ハ其ノ需要ニ從ヒ官立府縣立中學校又ハ此ト同等ナル官立府縣立學校及特別



可學校又ハ司法省警法學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ明治二十年勅令第三十七號ニ依リ普通試験ニ及第シタル者ヲ擧ケテ直チニ判任文官ニ任スルコトヲ得

第六條 試験ハ本邦ノ成法慣例及一般ノ學理ヲ以テ問題ト爲スヘシ但シ受験者應答ヲ爲スニ當リ外國ノ法例ヲ參照ニ引擧スルコトヲ得

特別ノ必要ニ依リ外國語ヲ試験問題ト爲スハ前項ノ限ニ在ラス

第七條 本令ハ明治二十年勅令第三十七號第二十條ニ依リ試験ヲ經スシテ任官シタル者並ニ明治二十一年以後郡區長ノ試験ニ及第シテ任官シタル者ニ適用セス

○勅令 明治廿三年二月四日

朕郡區長任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九號

第一條 郡區長ハ五ヶ年以上官務ニ從事シ判任官五等以上ノ現職ニ在ルモノニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス郡區長試験委員長ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 郡區長試験委員長ノ銓衡ヲ經テ郡區長ニ任用シタル者他ノ道廳府縣ノ郡區長ニ轉任スルトキハ更ニ郡區長試験委員長ノ銓衡ヲ經ヘシ

第三條 郡區長試験委員長ノ銓衡ヲ經テ任用シタル郡區長ハ高等試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

○宮内省告示第八號

明治廿三年二月三日

皇女御名<sup>フツ</sup>房子ト命セラレ周宮ト稱シ奉ル

○勅令

明治二十三年二月四日

朕巡查奉職滿五年以上ノ者ヲ警部警部補ニ任用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十號

巡查奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ文官試験試補及見習規則第二條ノ規定ニ據ラス文官普通試験委員長ノ銓衡ヲ經テ警部警部補ニ任用スルコトヲ得

但試験ヲ經スシテ任用シタル警部警部補ハ普通試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

○法律

明治廿三年二月七日

朕備荒儲蓄法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第五號

明治十三年(六月)第三十一號布告備荒儲蓄法中左ノ通改正シ明治廿三年度ヨリ施行ス

第二條 備荒儲蓄金ヲ分ツテ中央儲蓄金府縣儲蓄金ノ二トス

中央儲蓄金ハ明治廿二年度迄ノ中央儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス

府縣儲蓄金ハ明治廿二年度迄ノ府縣儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス  
 第三條 中央儲蓄金ハ國庫ニ備置キ大藏大臣之ヲ管理シ府縣儲蓄金ノ補助ニ充ツヘキモノトス  
 第四條 府縣儲蓄金ノ管守支給及ヒ利殖ノ方法ハ府縣知事之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り内務  
 大藏兩大臣ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第五條 削除

第七條中三分二トアルヲ百分ノ五ト改ム

第十條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ出納決算ヲ翌年度通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ仍

ホ内務大藏兩大臣ニ報告スヘシ

大藏大臣ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納決算ノ要領ヲ告示スヘシ

附則

本法改正ノ爲ノ府縣儲蓄金明治廿三年度内ニ於テ施行スヘキ利殖ノ方法ヲ定メ及ヒ收入豫算又  
 ハ管守支給ノ方法ニ改正ヲ要スルトキハ府縣知事ハ常置委員會ニ付シ之ヲ議決セシムルコトヲ  
 得

○法律

明治廿三年二月八日

朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコ

トヲ命ス

御名 御璽

法律第六號

裁判所構成法目次

第一編 裁判所及檢事局

第一章 總則

第二章 區裁判所

第三章 地方裁判所

第四章 控訴院

第五章 大審院

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及ヒ資格

第二章 判事

第三章 檢事

第四章 裁判出書記

第五章 執達吏

第六章 廷丁

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

- 第二章 裁判所ノ用語
- 第三章 裁判ノ評議及言渡
- 第四章 裁判所及検事局ノ事務章程
- 第五章 司法年度及休暇
- 第六章 法律上ノ共助
- 第四編 司法行政ノ職務及監督權
- 裁判所構成法

第一編 裁判所及検事局

第一章 總則

第一條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一 區裁判所

第二 地方裁判所

第三 控訴院

第四 大審院

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事等ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總

テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

第六條 各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認めルトキハ通知ヲ求ム其ノ意見ヲ述フルヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條 檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條 各裁判所ニ書記課ヲ置ク書記課ハ往復會計記録其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認めタルトキニ限り別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得  
第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執  
行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ  
第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各  
裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權ア  
ルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且  
此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サ  
ルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ  
第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ  
受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章 區裁判所

第十一條 區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ  
判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其裁判事務ヲ各判

事ニ分配ス

此事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム  
區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因  
リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一名ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政  
事務ヲ委任ス

第十二條 事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多  
キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生  
シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ  
相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス  
一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ之  
ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同シ毎年以前以テ之ヲ定ム

第十四條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟  
法ノ定ムル所ニ依ル

- 第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求
- 第二 價額ニ拘ラス左ノ訴訟

(イ) 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ) 不動産ノ境界ノミニ關ル訴訟

(ハ) 占有ノミニ關ル訴訟

(ニ) 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

(二) 旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一 未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

第十六條 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三 刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

第十七條 前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク  
區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得  
司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章 地方裁判所

第十九條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニハ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第二十條 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年以前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノト席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可ク否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條 或ル部ニ於テ着手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務コシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條 第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置ニタヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中ニ之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 地方裁判所ノ判事差支ノ爲成ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且裁判所ノ判事其ノ代理ヲ爲シ得ヘキモノナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル訴訟

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

第二十九條 地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條 地方裁判所ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二

以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用井ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ撰用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事申一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章 控訴院

第三十四條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條 事務ノ分配及結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一 前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二 控訴院 判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用ササルコトヲ得ス

第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 區裁判ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條 皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條 控訴院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此法律ニ定メタルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條 第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條 各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク檢事長並ニ其他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章 大審院  
第四十三條 大審院ニ最高裁判所トス  
大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク  
第四十四條 大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス  
大審院長ハ大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム  
管四十五條 大審院ノ事務並ニ代理ノ順序ハ每年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム  
大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ  
大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキモノナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得  
第四十六條 大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得  
第四十七條 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

第四十七條 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス



司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ点ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條 大審院ノ或ハ部ニ於テ原告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ点ニ付會テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部其若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合テ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(イ) 第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スルト告

(ロ) 控訴院ノ判定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ重キ刑ニ處スヘキモノ、豫審及裁判

第五十一條 前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條 大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七八ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七八ノ判事一人ヲ裁判長トス其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條 第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條 大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格

第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニハ第六十五條ニ揭ケタル場合ヲ除キ二回ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス

第五十八條 志願者前條ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験ニ關ル細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試験ニ及第シタル者ハ第二回試験ヲ受クルノ前試験トシテ裁判所及檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第五十九條 司法大臣ハ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得

此罷免ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十條 一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條 試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セズ

第一 訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラヌ裁判ヲ爲ス事

第二 證據ヲ調スル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三 登記ヲ爲ス事

第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得

第六十三條 新任ノ判事又ハ檢事ハ關位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ關位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ヅ

第六十四條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用サレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且適當代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條 制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時關位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條 三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ揭ケタル試験ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試験ヲ經スシテ試補ヲ命セラル、コトヲ得

第六十六條 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ在ラス

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者  
第二章 判事

第六十七條 判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス

第六十八條 大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院 部長ハ司法大臣ノト奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十條 十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十一條 第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各々其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十二條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一 公然政事ニ關係スル事

第二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四 商業ヲ營ミ又ハ其ノ進行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條 第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ル

ニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラル、コトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命ゼラル、ハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴訟ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ  
第七十四條 判事身體若ハ精神 衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十五條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スルニ關位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條 判事ノ官等俸給及進級ニ關シ規程ハ勅令ノ主ナル所ニ依リ  
第七十七條 判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

第七十八條 判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴訟ヲ始メタメカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章 檢事

第七十九條 檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス  
檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十條 檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコ

トヤシ  
第八十一條 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條 檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條 檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自テ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ヲ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條 司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事

ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル著ヲ定ム

第四章 裁判所書記

第八十五條 裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一八ノ書記ヲ置ク

第八十六條 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各々其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條 書記長ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

第八十八條 書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス

書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條 書記ニ任セラレ、ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験及試験ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ

關ル細則ハ裁判所書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條 書記ニ任セラレタル者關位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラレ、コトヲ得

第九十一條 書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ又其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記録ノ調製若ハ變史ニ關ル場合ニ於テ其調製若ハ變史ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ掲ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣

之ヲ定ム

第九十二條 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條 豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章 執達吏

第九十四條 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラル、ニ必要ナル資格並ニ試験ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條 執達吏ハ手数料ヲ受ク其ノ手数料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十八條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許可ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲サル場合ニ限り裁判ノ執行ヲ執行ス

前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章 廷丁

第一百一條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及其雇ヲ解ク

第一百二條 廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用サルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所々在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用井ルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第一百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一百四條 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲タル裁判所長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲タル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第二百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第二百六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第二百七條 裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ着セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第二百八條 關廷中秩序 維持ハ裁判長ニ屬ス

第二百九條 裁判長ハ審問ヲ妨グル者又ハ不當 行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違反者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其 所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タズシテ本條ノ違反者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二 違反者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬罪ヲ謝スルマテ其審問ヲ中止スルコトヲ得

第一百一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用井ル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第一百十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲メ第九條第十條及第一百一條ヲ以テ與ヘタ權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ニ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ヲ受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第一百十三條 第九條第十條及第一百一條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及該ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第一百十四條 判事檢事及裁判所書記ハ公關シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第一百十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用井ル

コトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用フ

第一百十六條 通事ノ任命及使用並訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百十七條 通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用

井ラル、コトヲ得

第一百十八條 外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏、或

ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章 裁判ノ評議及言渡

第一百十九條 合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第一百二十條 四日以上引續シヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之

ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續

キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第一百二十一條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ頗未並ニ各判事ノ意見及多少ノ數

ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス

第一百二十二條 評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終ト

ス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第一百二十三條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三説以上ニ分レ其ノ説各々過半數ニ至ラサルトキハ半數ニ至ルマテ最多

額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三説以上ニ分レ各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不

利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第一百二十四條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章 裁判所及檢事局ノ事務章程

第一百二十五條 裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般

ノ取扱ニ關リ成ルヘシ統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開庭時間及開庭ノ時日ニ付訓令ヲ

發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章 司法年度及休暇

第一百二十六條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第一百二十七條 裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第一百廿八條 休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セス

第一 爲替手形若ハ約束手形其他ノ流通證書ニ關ル請求

第二 船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求

第三 財産差押事件

第四 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五 養料ノ請求

第六 保證ヲ出サシムルノ請求

第七 取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八 前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル處ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

第二百二十九條 休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件並ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第三百十條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲ニ休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設クシテ之ヲ組立ハ休暇ノ始マレ前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス  
二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第六章 法律上ノ補助

第三百十一條 裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス  
法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ

之ヲ爲ス

第三百十二條 檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱ヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第三百十三條 裁判所書記課モ亦各自ノ權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第四編 司法行政ノ職務及監督權

第三百十四條 合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第三百十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規定ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其裁判所若ハ其支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六 檢事總長ハ其 檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

督ス



第三百三十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務ヒトトシテ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事  
但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辨明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第三百三十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第三百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第三百三十八條 裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第三百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第三百三十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ満足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四百十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱 延滞若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第四百十一條 裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述ブ

第四百十二條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第四百十三條 此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ボシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附 則

第四百十四條 此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ抵觸スト雖モ當分ノ内仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

○法律  
明治廿三年二月八日

朕重罪控訴豫納金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

法律第七號

重罪控訴豫納金規則

第一條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金二十圓ヲ豫納スヘシ

第二條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者貧困ニシテ保證金ヲ豫納スル能ハサルトキハ控訴ノ申立ト同時ニ保證金ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

第三條 保證金ノ免除ヲ請求シタル者ハ其請求ヲ爲シタル日ヨリ十四日內ニ控訴ノ趣意書ト共ニ裁判費用支辨ノ資力ナキコトヲ證スヘキ住居地市町村長ノ證明書ヲ差出スヘシ但其市町村

役場三里以外ニ在ルトキハ治罪法第十九條ニ規定シタル猶豫ヲ與フ

第四條 前二條ニ記載シタル書類ハ訴訟ニ關スル一切ノ書類ト共ニ第一審裁判所ノ檢事ヨリ控訴院ノ書記課ニ之ヲ送致スヘシ

第五條 控訴院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ保證金免除請求ノ當否ヲ決定スヘシ但控訴ノ事由ナシト認ムルカ又ハ事由アルモ實益ナシト認ムルトキハ免除ヲ與ヘサルモノトス

第六條 保證金ノ免除ナキトキハ控訴ノ申立ハ其効ナキモノトス

第七條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ第一條ノ保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

○法律 明治廿三年二月八日

朕北海道水産稅則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第八號

明治二十年(三月)勅令第六號北海道水産稅則中左ノ通改正シ明治廿三年四月一日ヨリ施行ス

第九條 水産物營業人組合ハ納稅委員ヲ置キ其組合ニ係ル納稅ノ事ヲ擔理セシムヘシ但納稅委員ニ關スル費用ハ其組合ノ負擔トス

前項納稅委員ハ組合會ニ於テ其會員中ヨリ之ニ充ツヘキ者若干名ヲ選舉シ其中ニ就キ北海道廳長官之ヲ指定ス但納稅委員ハ二箇年毎ニ之ヲ改選スルモノトス

第十條 收稅委員ヲ納稅委員ト改ム

第十一條 第十二條 削除

○詔勅 明治廿三年二月十一日

朕惟ミルニ

神武天皇皇業ヲ恢弘シ繼承シテ朕ニ及ヘリ今ヤ復カニ登極紀元ヲ筭スレハ二千五百五十年ニ達セリ朕此期ニ際シ

天皇戡定ノ故事ニ徵シ金鷲勳章ヲ創設シ將來武功拔粹ノ者ニ授與シ永シ

天皇ノ威烈ヲ光コシ以テ其忠勇ヲ獎勵セントス汝衆庶此旨ヲ體セヨ

○宮城縣訓令第二號 明治廿三年二月十二日 郡市役所 町村役場

明治廿二年(十二月)訓令第七十七號海軍志願兵徵募事務取扱手續第五條中二月廿日ヲ三月二十

日ト改ム 明治廿三年二月十四日

○宮城縣令第七號 明治二十年四月縣令第三十號蠶絲業組合設置規程ヲ更正スルコト左ノ如シ

但四月 日ヨリ施行ス

第一條 蠶絲業者ハ養蠶製絲ノ改良蕃殖ヲ計リ販路ヲ擴張シ及賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ同業者ハ必ス之ニ加盟ス可シ但機械製糸場ハ管內ヲ選シ別ニ一組合ト爲スコ

トヲ得此場合ニ於テハ事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルノ事由ヲ具シ特ニ縣廳ノ認定ヲ請フ可シ

第二條 此規程中蠶糸業者トアルハ養蠶製糸ノ業ヲナスモノ又ハ蠶種ヲ製造並ニ販賣スルモノ

及蠶種繭糸ノ類ヲ賣買スル商人並ニ荷造問屋等ノモノヲ認稱ス

第三條 組合ノ區畫ハ一郡一市ヲ以テ區域トス但土地ノ情况及産額ノ多少ニ依リ本條ニ依リ難キモノハ其事由ヲ具シ縣廳ノ認定ヲ請フ可シ

第四條 組合ハ何郡市蠶絲業組合ト稱ス可シ

第五條 組合内便宜ノ地ニ事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理ス可シ

第六條 縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監督ス可シ

第七條 組合ハ左ノ事項ニヨリ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

第一項 繭ハ春夏秋若クハ黃白ノ種類又ハ殺蛹法ノ異ナルモノヲ混淆セサル事

第二項 繭ハ製絲ニ適シ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第三項 桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ善良ナラシメ兼テ蠶病ヲ豫防スル事

第四項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第五項 繭荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第六項 一捆ハ勿論一總若クハ一把中良否混淆等モノヲ製造販賣セサル事但等級ヲ區分シ一捆トナシタルモノハ此限ニアラス

第七項 生絲ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ附シ賣買セサル事

第八項 綾取アル揚粹ヲ用ヒ尺度ヲ一様ナラシムル事

第九項 生糸ノ結束及綴ノ量ヲ一様ナラシムル事

第十項 堤嶋田折返造等ノ生糸ヲ揚返サスシテ其儘改造販賣セサル事

第十一項 生糸荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第十二項 統計報告調査ノ法ヲ設クル事

第十三項 組合員ノ證票ニ關スル事

第十四項 役員選舉ノ方法及其權限職務順序ノ事

第十五項 會議ニ關スル規程

第十六項 違約者處分ノ方法

第十七項 經費ノ賦課徵收支出ノ方法

第十八項 前各項ノ外組合ニ於テ必用トスル事項

第八條 取締所ノ規約ハ左ノ事項ニ依リ第九條及第十條ニ定ムル取締所會議ニ於テ決定シ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ

第一項 取締所位置

第二項 生絲検査ノ方法ヲ設ケ其精粗ヲ鑑別シ及製造上ノ弊害ヲ矯正スルコト

第三項 組合ノ證票並ニ証紙ハ一定ニ製造交付スル事

第四項 組合ニ關スル事務ノ處分及組合同規約實施監督ノ方法

- 第五項 役員ノ權限及處務規程
- 第六項 會議ニ關スル規程
- 第七項 違約者處分及紛議ヲ仲裁スルノ方法
- 第八項 經費賦課徵收支出ノ方法
- 第九項 統計編纂及通信報告ニ關スル方法
- 第十項 右ノ外必要トナス事項
- 第九條 取締所ノ組織及施設方法ヲ議定セシムル爲メ取締所會議々員ヲ置ク其議員ハ每郡市並ニ機械製絲塲組合員中ヨリ各一名ヲ撰出ス可シ
- 第十條 議員ハ右蠶絲業組合重役ニ於テ組合員中蠶絲二枚以上ヲ掃立養蠶ヲ爲シ若シハ生糸二貫目以上ヲ製出スル組合員中ヨリ之レヲ撰擧シ其機械製絲塲組合ニ於テハ重役中ヨリ互撰ス可シ
- 第十一條 議員ノ任期ハ二ケ年トシ滿期ノ年二月中ニ改撰ス可シ但滿期ニ至リ再撰スルヲ得
- 第十二條 組合取締所ニ於テハ相當ノ役員ヲ置キ諸般ノ事務ヲ擔任セシム可シ
- 第十三條 取締所ノ役員中重ナル者ハ取締所會議々員ニ於テ各組合員中ヨリ撰出シ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ但時宜ニ依リ組合員外ヨリ撰出スルコトヲ得
- 第十四條 組合役員ノ内其重ナルモノハ組合員中ヨリ撰擧シ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ
- 第十五條 組合又ハ取締所役員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査ス可シ

- 第十六條 組合員ハ組合ノ名稱ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス
- 第十七條 組合員ハ組合及取締所ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス
- 第十八條 組合員ハ必ス其組合ノ証票ヲ携帯ス可シ但証票ニハ縣廳ノ捺印ヲ受ク可シ
- 第十九條 第一條ニ違背スルモノハ一日以上十日以内ノ拘留ニ處シ又ハ金二十錢以上金一圓九十五錢以内ノ科料ニ處ス

○法律

明治廿三年二月十二日

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第九號

水道條例

- 第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地、貯水地、滲水場、唧水塔及水道線路ニ要スル地ヲ云フ
- 第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス
- 第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第一 水道事務所ノ所在地
- 第二 水源ノ位置(河川池湖又ハ堀井ノ別其周圍ノ概況)及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析

表ヲ添フヘシ

- 第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地、濾水場、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ
- 第四 給水ノ區域其ノ入口及其一人一日ニ對スル平均給水量
- 第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
- 第六 水壓ノ概算
- 第七 工事方法
- 第八 起工並竣工期限
- 第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
- 第十 水料ノ等級價格水料徴収ノ方法及經常收支ノ概算
- 第四條 內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ發シ  
フヘシ
- 第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス
- 第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
- 第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ檢査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

- 第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ
  - 第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ檢査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得
  - 第十一條 家屋内ノ給水用具及分支水管ヨリ之ニ接續スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス
  - 第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ檢査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帯スヘシ
  - 第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ
  - 第十四條 家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴収スルコトヲ得
  - 第十五條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ檢査スヘシ
  - 第十六條 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノ、爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ
  - 第十七條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴収スルカラス
- 法律  
 明治廿三年二月十二日  
 朕市町村制及土地取用法ニ關スル訴訟取扱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 御名 御璽

法律第十號

市町村制實施以前區戶長ノ處分ニ關シ市町村長ニ對スル行政訴訟並同制實施後ニ係ル市町村長ニ對スル行政訴訟ハ從前郡區戶長ニ對スル事件ニ準シ始審裁判所ニ於テ取扱フヘシ但明治廿二年法律第十六號ヲ以テ指定シタル場合ハ此限ニアラス

土地收用法第十五條第一項ニ該當スル訴訟事件ニシテ該法律施行前受理シタルモノハ從前ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

○省令

明治廿三年二月十二日

大藏省令第三號

明治廿二年(三月)大藏省令第五號國稅徵收法施行細則左之通改正シ明治廿三年四月一日ヨリ施行ス

國稅徵收法施行細則

第一條 徵收法第八條市町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一第二號様式ニ依リ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ徵稅令書ヲ發シタルトキハ該納額ヲ收入官吏ニ達スヘシ

第三條 市町村長ニ於テ地租船車稅ノ徵稅傳令書發付後納期限以前ニ於テ土纜若クハ船車ノ所有權移轉又ハ土地ノ質入ニ係ルモノアルトキハ彙キノ傳令書ヲ更正スヘシ

第四條 各納稅人ニ於テ稅金ヲ金庫ニ納付スルトキハ徵稅令書ヲ添付スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ稅金ヲ金庫ニ納付スルトキハ第四條様式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第六條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治廿二年大藏省令第十三號第十五條及第十

六條ニ據リ金庫ニ拂込ムヘシ

第七條 各納稅人若クハ市町村長ハ稅金ヲ金庫ニ納付シタルトキハ即時別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フヘシ

第八條 各納稅人若クハ市町村長ヨリ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ請フトキハ收入官吏ハ即時

ニ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

第九條 收入官吏ハ其切離シタル別符ニ領收證檢印濟ノ年月日ヲ記入シ其傍ニ檢印シ之ニ據リ

收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治廿二年大藏省令第十一號書式第二號ノ領收

證ヲ發シ同時ニ收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十一條 收入官吏現金ヲ金庫ニ拂込タルトキハ其別符附領收證ヲ府縣知事ニ送付シ別符ノ切

離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第十二條 府縣知事ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之ヲ記入

シ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

第十三條 府縣知事ニ於テ收入官吏ノ送付シタル領收證ヲ檢シタルトキハ毎月其檢定報告書ヲ

製シ翌月七日以内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第十四條 收入官吏ハ毎日領収證ヨリ切離シタル別符及拂込額ノ總計金額ト金庫ヨリ毎日報告スル税金領収日計表ノ金額ト照查スヘシ

第十五條 收入官吏ハ明治廿二年大藏省令第十一號書式第四號ニ據リ收入報告書ヲ調製シ收入金月計對照表ヲ添ハ翌月七日マテ府縣知事ニ送付スヘシ

第十六條 府縣知事ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ヲ取纏メ同式ノ毎月收入彙計書ヲ添ヘ收入官吏ヨリ送付スル所ノ收入報告書及收入金月計對照表ヲ翌月十五日マテ大藏省ニ送付スヘシ

第十七條 收入官吏ハ第五號第六號樣式ニ據リ徵稅簿ヲ備ヘ調定額收入額收入未濟額缺損額ヲ記載スヘシ

第十八條 收入官吏ニ於テ調製セル收入簿現金出納簿ハ明治廿二年大藏省令第十一號書式第十四號及第十八號ニ依ルヘシ

第十九條 收入官吏ハ第七號樣式ニ據リ各納期後五十日以内ニ收入額收入未滿額及缺損額報告書ヲ調製シ府縣知事ニ送付スヘシ

第二十條 府縣知事ハ前條ノ報告書ヲ取纏メ更ニ同式ノ集計報告書ヲ調製シ各納期後六十日以内ニ大藏省ニ送付スヘシ

第二十一條 收入檢定簿檢定報告書其他事務整理上必要ナル帳簿ハ便宜ノ式ニ據リ之ヲ調製スヘシ

第一號樣式

用紙適宜 縱四寸五分 橫三寸三分

第	何	號	經	常	租	稅	何	郡	何	長	氏	名	納
明	治	何	年	度	地	租	田	租	明	治	何	年	
收	入	官	吏	官	氏	名	振	收	稅	部	何	地	出
													張
													所

稅元印割帳

一金何程

令 右何年何月何日限何地金庫へ納付スヘシ

書 明治何年何月何日

府縣廳之印

何府縣知事氏名

第二號樣式

用紙寸法同上

第 何 號	經 常 租	稅 何 郡 何 村 氏 名 納
明治何年度	菓子	製造
收入官吏官氏名扱	税	製造
	收入部	何地出張所
		明治何年度
		何期分

一金何程

内 金何程 何 誰  
 金何程 何 誰  
 金何程 何 誰

納税ノ數多アリテ記入シ能ハサルトキハ合書ニハ合計  
 ノミヲ記載シ一人別仕譯書ヲ添付スヘシ

右何年何月何日限何地金庫へ納付スヘシ  
 明治何年何月何日 何府縣知事氏名

府縣之印

第三號樣式

用紙適宜 縦四寸五分ノモノニ枚 縦四寸五分ノモノ一枚接續  
 横三寸三分

第 何 號	經 常 租	稅 何 郡 何 村 氏 名 納
明治何年度	酒	製造
收入官吏官氏名扱	税	製造
	收税部	何地出張所
		明治何年度
		何期分

一金何程

右何年何月何日限何地金庫へ納付スヘシ  
 明治何年何月何日 何府縣知事氏名

府縣之印

金庫

割印

第 何 號	經 常 租	稅 何 郡 何 村 氏 名 納
明治何年度	酒	製造
收入官吏官氏名扱	税	製造
	收税部	何地出張所
		明治何年度
		何期分



収 證 書



一金何程



右領收候也

明治何年何月何日

何地金庫印



第何號經常租稅

何郡何村民名納

明治何年度酒造稅釀造酒稅

明治何年何期分

收入官吏官氏名扱

收稅部何地出張所



一金何程



明治何年何月何日何地金庫へ納付



第四號樣式

用紙適宜 縱四寸五分ノモノ二枚 縱四寸五分ノモノ一枚 接續 横三寸三分 横二寸

納 付 書

第何號經常租稅何郡何村何年何期分

明治何年度地租田第明治何年何期分

收入官吏官氏名扱 收稅部何地出張所

徵稅令書第何號ノ分又ハ金何程ノ内

一金何程

右納付候也

明治何年何月何日

何郡何市町長氏名印

金庫

割印

領 書

第何號經常租稅何郡何村何年何期分

明治何年度地租田第明治何年何期分

収

證

書

収入官吏官氏名扱

收税部何地出張所

徴税令書第何號ノ分又ハ金何程ノ内

収入官  
吏捺印

一金何程

取  
任  
金  
庫  
主  
印

右領收候也

明治何年何月何日

何地金庫印

金庫  
割印

収入官  
吏捺印

第何號經常租税何郡何長納

明治何年度地租田租  
明治何年何月何日

収入官吏官氏名扱  
收税部何地出張所

徴税令書第何號ノ分又ハ金何程ノ内

一金何程

取  
任  
金  
庫  
主  
印

明治何年何月何日何地金庫へ納付

収入官  
吏捺印

記簿凡例

- 一 収入官吏ハ府縣知事ヨリ納額ノ達ヲ受ケタルトキハ其納額ヲ一市町村毎ニ第五號ノ帳簿ヘ  
①印ノ如ク記載シ其増額ハ②印ノ如ク記載シ其減額ハ③印ノ如ク記載スルモノトス
- 二 税金收入濟ニ至リ納税人ニ檢印ヲ與ヘ別符ヲ切離シタルトキハ之ヲ納額ニ照合シ④印ノ如  
ク記載シ其殘高ヲ⑤印ノ如ク掲記スルモノトス
- 三 滞納處分ノ未追徴シタル税金ハ⑥印ノ如ク記入シ其徵損ヲ生セシモノハ⑦印ノ如ク掲載ス  
ルモノトス
- 四 隨時收入ニ係ル各納税人別ノ納額ノ通知ヲ受ケタルトキハ第六號帳簿ヘ⑧印ノ如ク記載シ  
税金收入濟ニ至リ檢印ヲ與ヘ別符ヲ切離シタルトキハ⑨印ノ如ク記載スルモノトス

(此帳簿ハ目限り納期毎ニ調製スヘシ)

何年度畑租  
徴税簿

應  
名

第一期畑租

何郡町村

年月日	摘要	調定額	減額	收入額	缺損	未済
六月十五日	納額ノ達ヲ受 ク	① 三千圓				② 三千圓

七月三十日	領収證檢印			五百圓		二千五百圓
八月十日	同			千圓		千五百圓
八月廿一日	何々ニ依リ減		百圓			千四百圓
九月一日	領収證檢印			千四百圓		完結
年 月 日	摘 要	調 定 額	減 額	収 入 額	飲 損 未 済	
六月十五日	納額ノ達ヲ受	千五百圓				千五百圓

第一期畑租 何 郡 乙 村

八月卅一日	領収證檢印			千圓		五百圓
八月卅一日	何々ニ依リ増額ノ分納額ノ達ヲ受					六百圓
九月二日	領収證檢印			四百圓		二百圓
九月二十日	滯納處分ノ末追徴			百圓		百圓
九月二十日	同上缺損				百圓	完結

第六號様式

何年度何税(隨時收入) 徵 稅 簿

(此帳簿ハ目限リ半年毎ニ調製スヘシ)

後半年分

収入未済額

金員事由

月	日	事由
.....	.....	.....

月日  
官吏官氏名印

「備考」  
「各税ノ内納期限ノ同一ナルモノハ之ヲ一表中ニ記載スヘシ」  
「内ハ朱書」

第何號

(此號數ハ年度中本書ノ  
ミノ順ヲ追フモノトス)

第七號様式

明治何年度

収入額収入未済額缺損額報告書

何税  
何税

何廳

何年度何税(目)

調定

額

收

入

額

納

税

人

金 何月何日納額ノ達ヲ受ク  
十 圓〇

①

何月何日領收證檢印

①

何郡何村

某

金 何月何日同上  
七 圓〇

①

何月何日同上

①

何郡何村

某

應名

前八期何年度何明治應何

科 目 項	目 目	調定濟額			收入濟額						欲損額			
		圓	錢	厘	納期限迄 = 收入ノ分			納期限後 收入ノ分			圓	錢	厘	
何々	何々													
													明治	年
														收入

六十四

○勅令  
明治廿三年二月十一日

朕金鷄勳章ノ等級製式佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十一號  
一金鷄勳章  
功一級ヨリ功七級ニ至ル武功拔群ナル者ニ賜フ

金鷄勳章製式

功一級章		功二級章	
章	金徑二寸五分	章	金徑三寸
綬	幅 二寸六分	章	金徑一寸八分
同	副章	綬	幅 一寸二分
同	副章	同	副章
	織地綠雙線白		織地綠雙線白
地	緋紅	地	緋紅
佛	紅	佛	紅
袷	光線	袷	光線
銀	紅	銀	紅
佛	色	佛	色
淡藍	紫	淡藍	紫
紫	白	紫	白
白	淡藍	白	淡藍
淡藍	色	淡藍	色
佛	佛	佛	佛
色	色	色	色
佛	佛	佛	佛
色	色	色	色

六十五

功三級章

章 金徑一寸八分

鷄金地劍綠紫白淡藍色佛  
絲嵌楯濃藍色佛絲嵌  
地黃紅色佛絲嵌光線紅色  
佛絲嵌

綬 幅 一寸二分

織地綠雙線白

功四級章

章 金徑一寸五分

鷄金地劍綠紫白淡藍色佛  
絲嵌楯濃藍色佛絲嵌  
地黃紅色佛絲嵌光線紅色  
佛絲嵌

綬 幅 一寸二分

織地綠雙線白

章 銀徑一寸五分

鷄金地劍綠紫白淡藍色佛  
絲嵌楯濃藍色佛絲嵌  
地黃紅色佛絲嵌光線紅色  
佛絲嵌

綬 幅 一寸二分

織地綠雙線白

功六級章

章 金長徑一寸七分

鷄劍楯矛金地

綬 幅 一寸二分

織地綠雙線白

功七級章

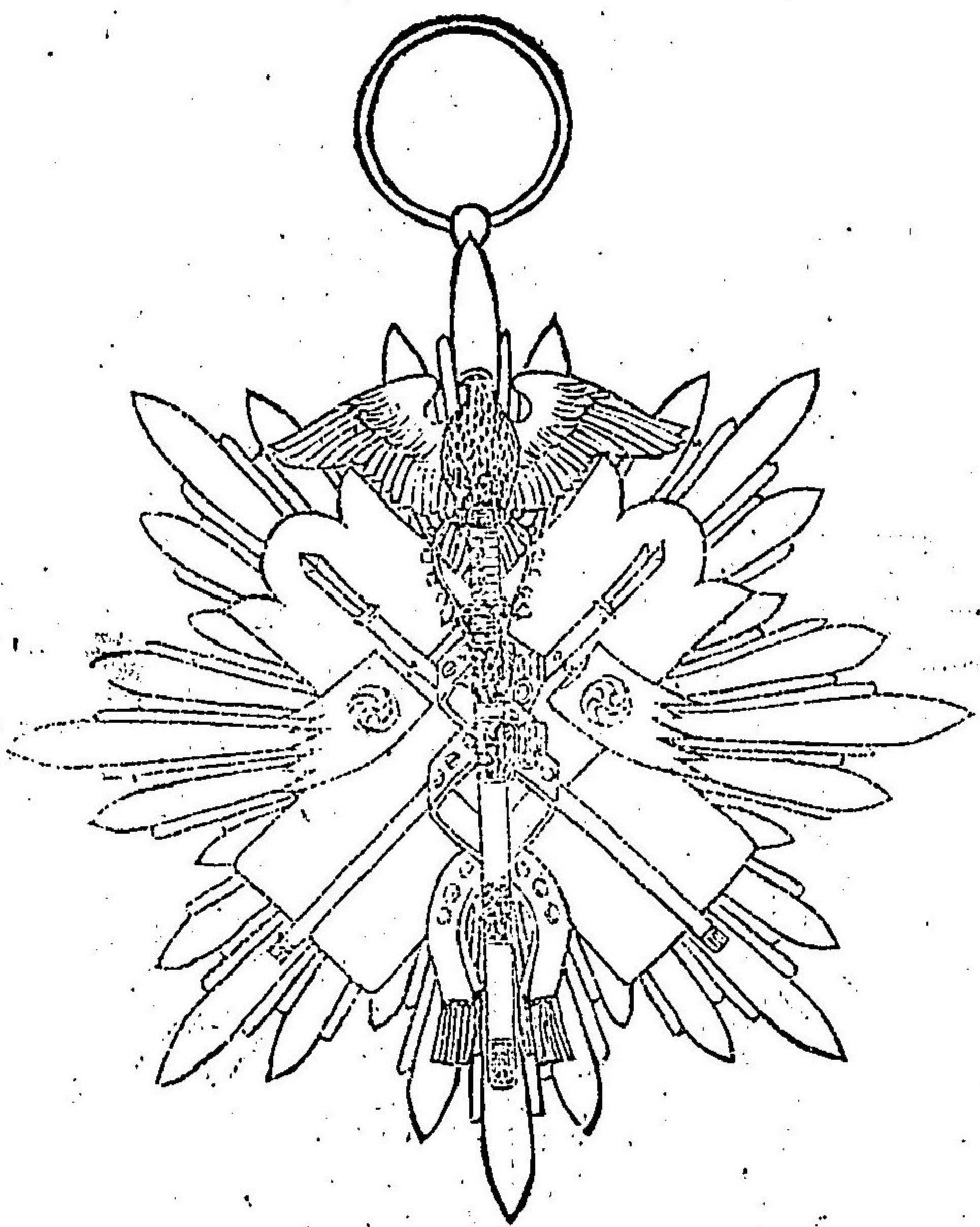
章 銀長徑一寸七分

鷄金地劍楯矛銀地

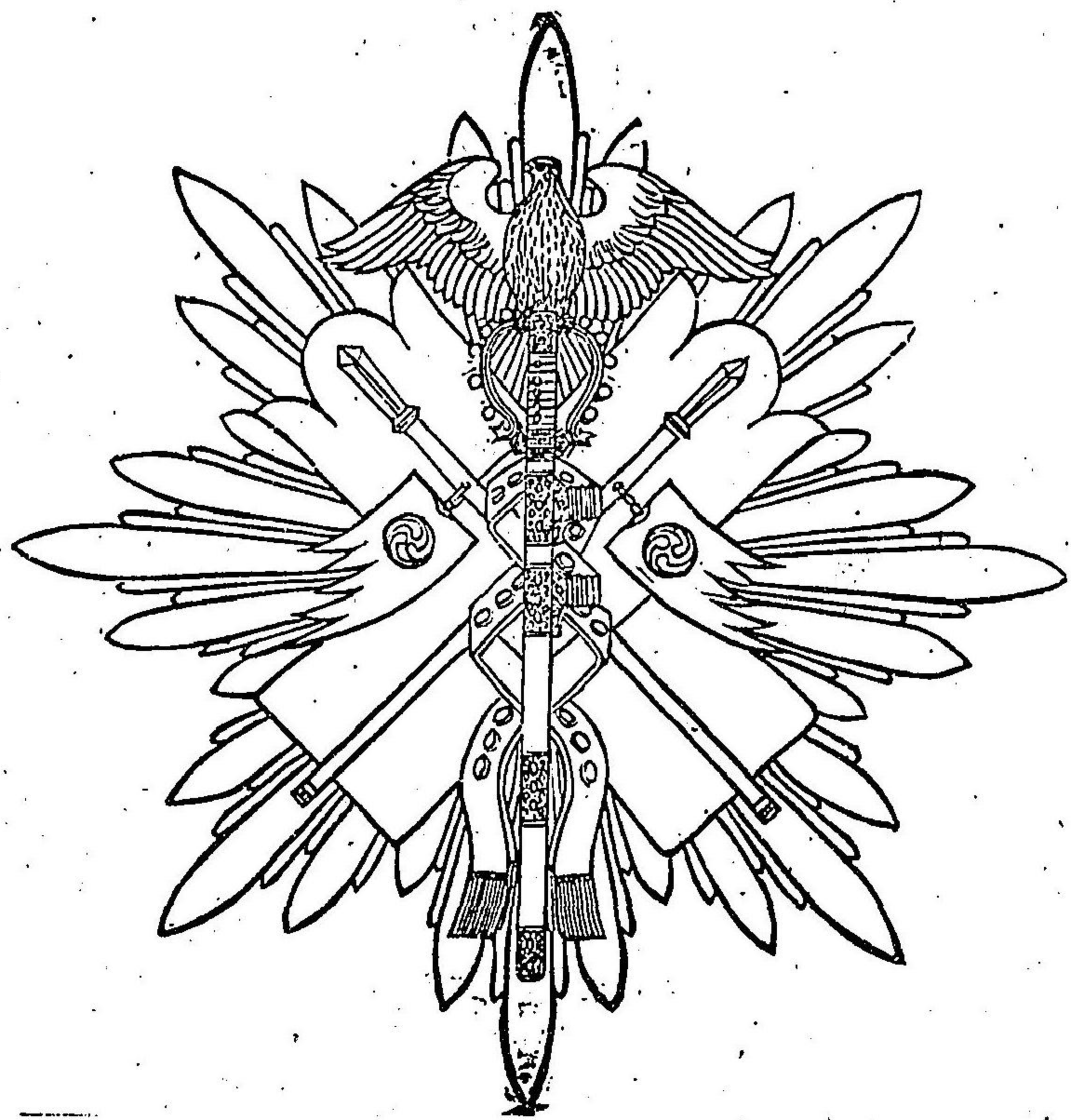
綬 幅 一寸二分

織地綠雙線白

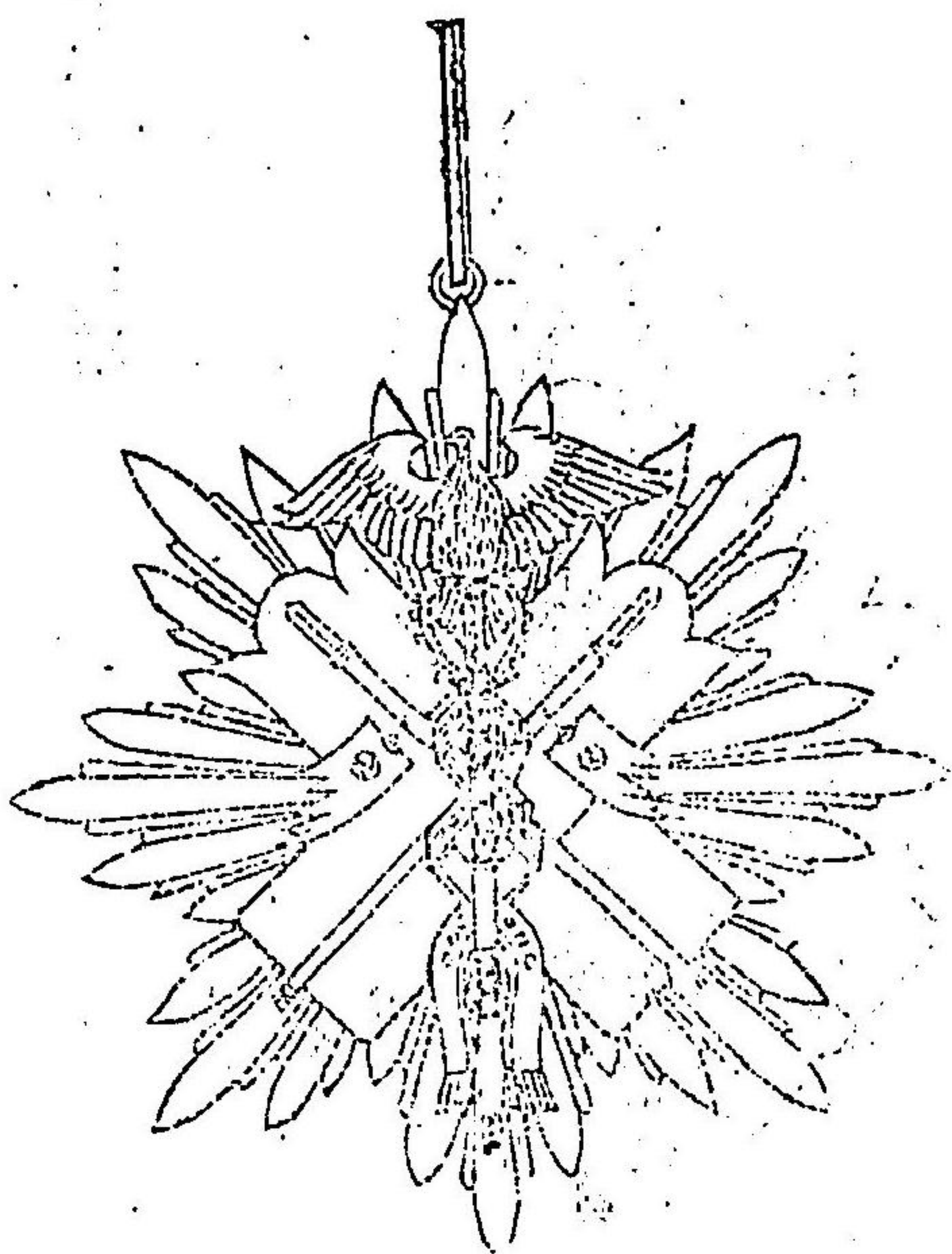
功一級金鷄章



功一級金鷄副章  
功二級金鷄章

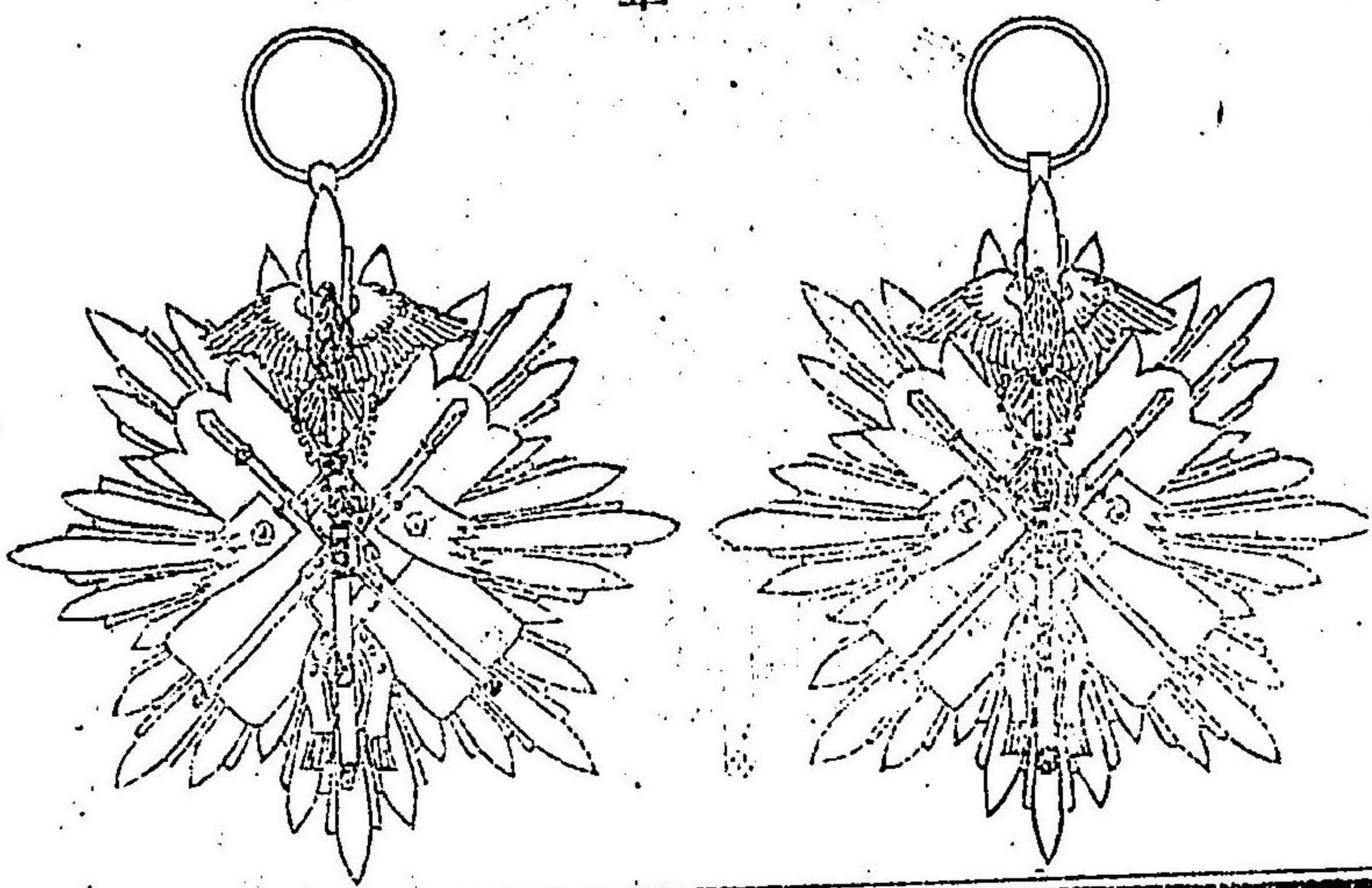


功三級金鷄副章  
功二級金鷄章

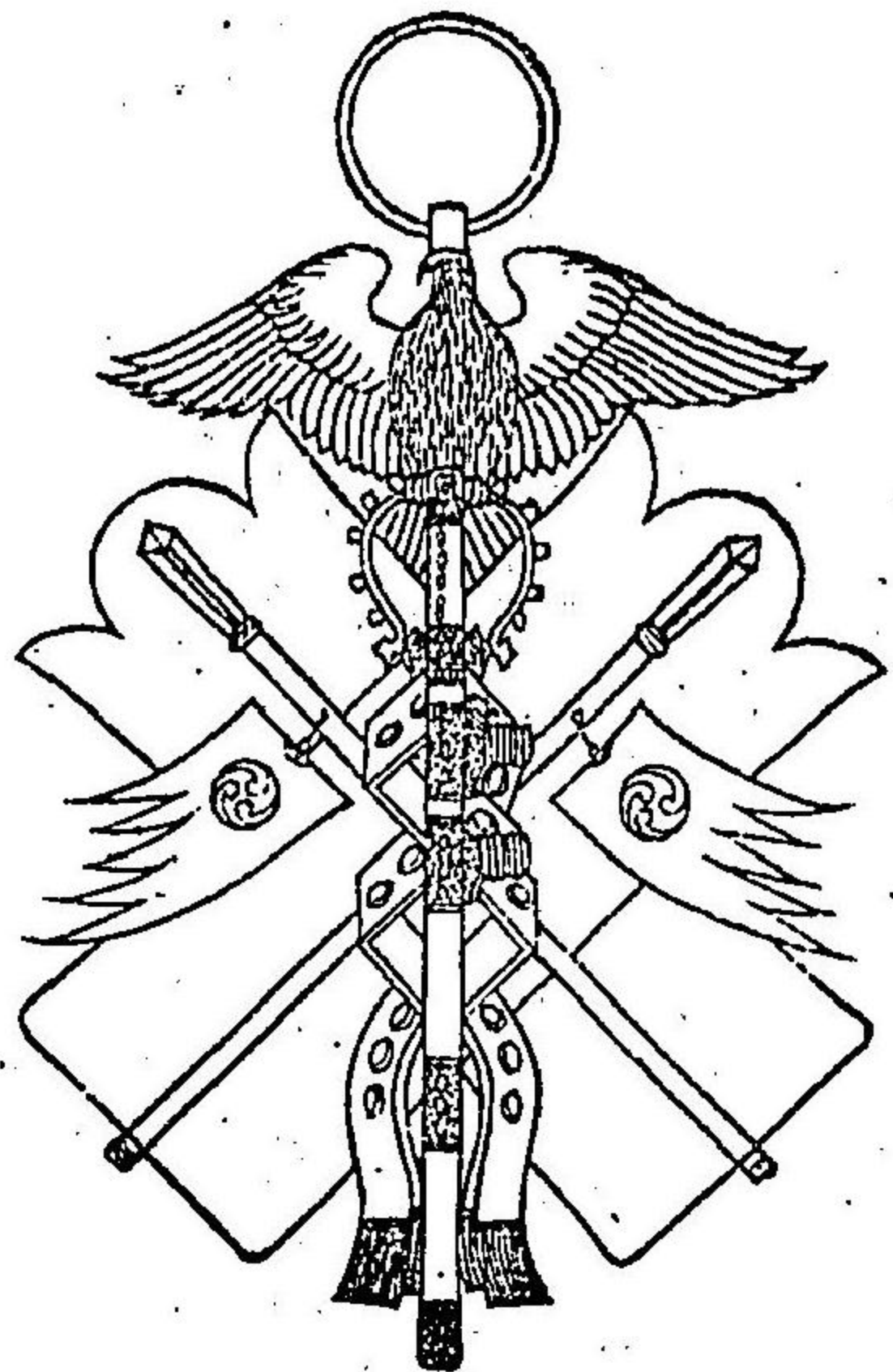


功四級金鷄章

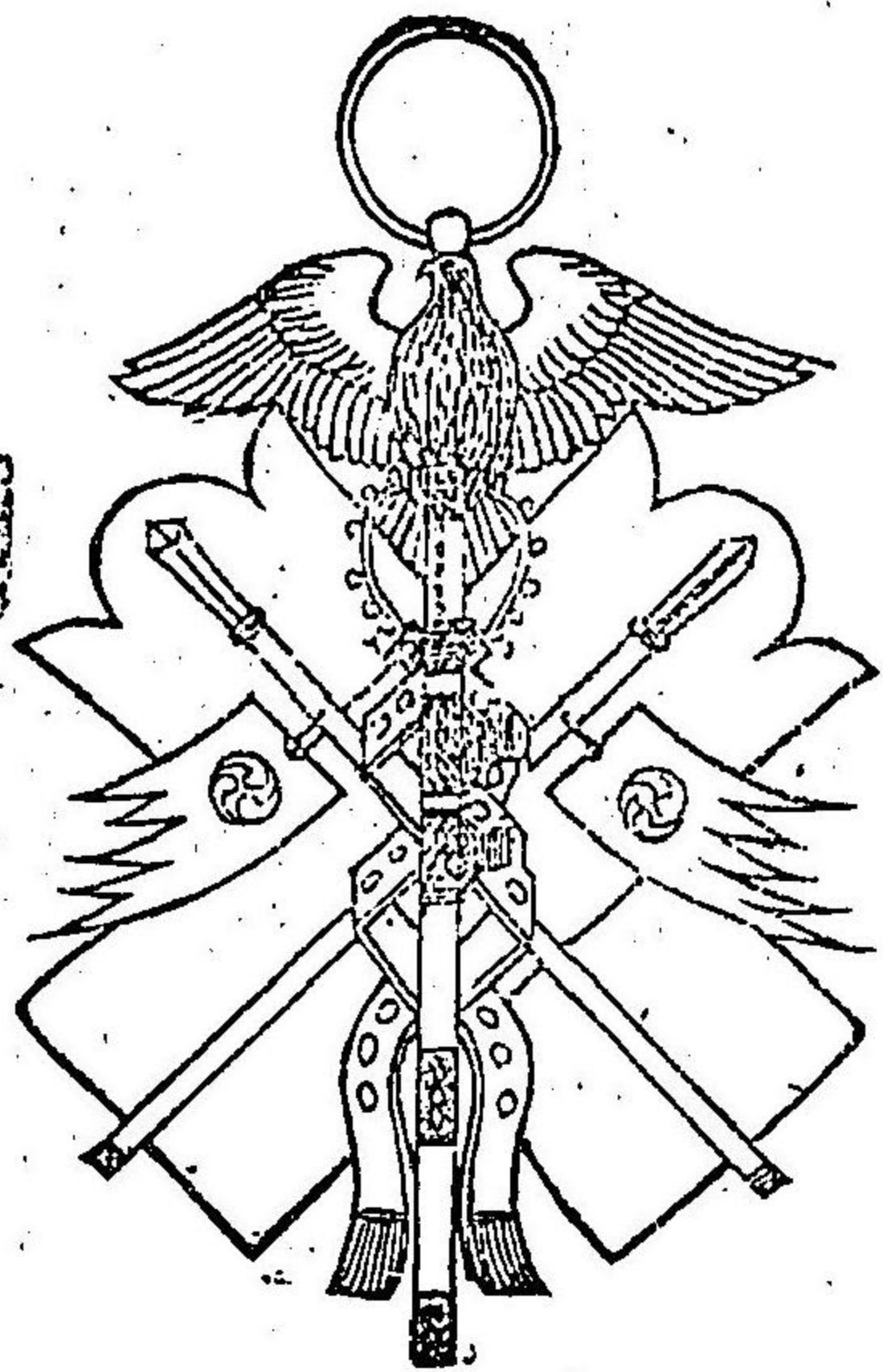
功五級金鷄章



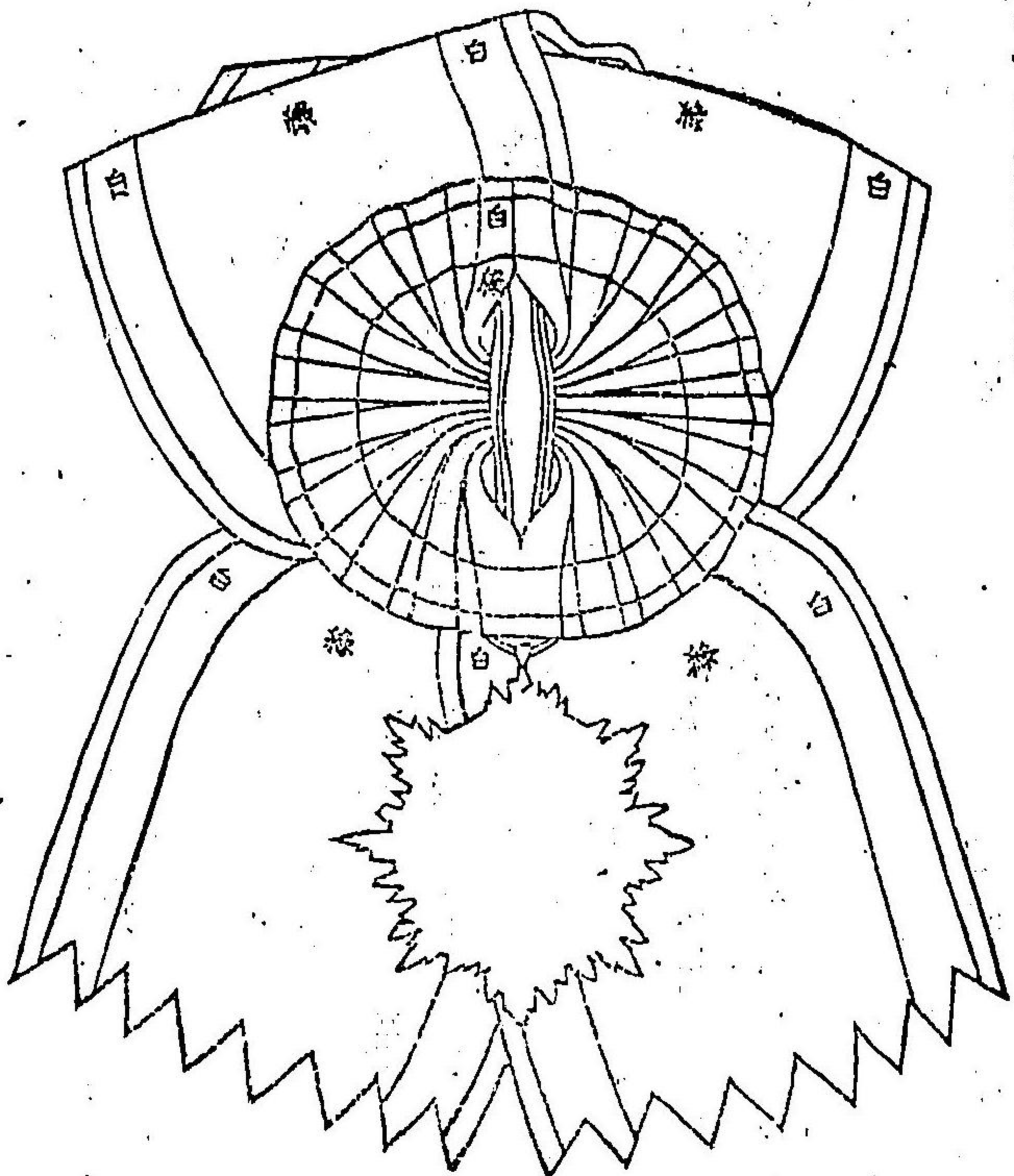
功六級金鷄章



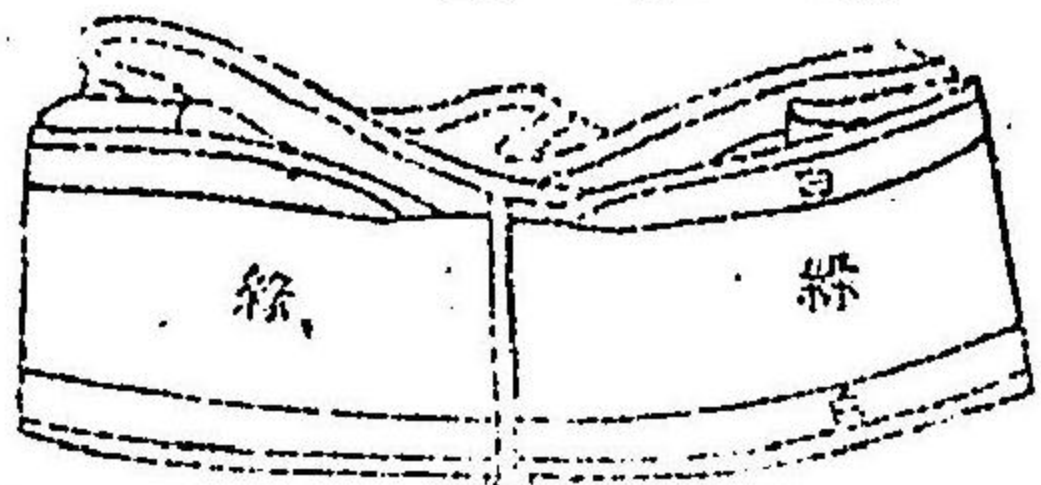
功七級金鷄章



功一級金鷄章大綬

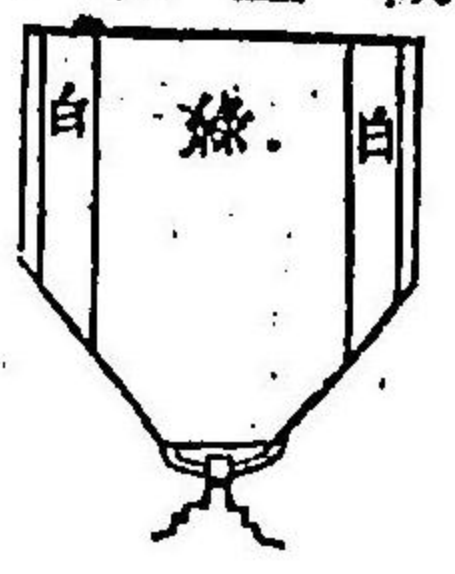


功二級金鷄章綬  
功三級金鷄章綬





功四級  
以下金  
鷄章綬



金鷄勳章零綬  
綠地白線



同上



同上



同上



金鷄勳章佩用式

- 一 功一級章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ニ垂レ其副章ヲ右肋ニ佩フ
- 二 功二級章ハ左肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
- 三 功三級章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
- 四 功四級章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

○勅令

明治廿三年二月十二日

朕陸軍武官官等表中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十二號

陸軍武官官等表中陸軍砲兵鑄工長ノ次ニ「陸軍砲兵蹄鐵工長」陸軍砲兵鑄工下長ノ次ニ「陸軍砲兵蹄鐵工下長」陸軍輜重兵一等軍曹ノ次ニ「陸軍輜重兵蹄鐵工長」陸軍輜重兵二等軍曹ノ次ニ「陸軍輜重兵蹄鐵工下長」ヲ加フ

○勅令

明治廿三年二月十二日

朕陸軍下士以下服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十三號

陸軍下士以下服制中左ノ通改正ス  
騎兵蹄鐵工長同工下長ノ服制ハ騎兵一等軍曹同二等軍曹ニ砲兵蹄鐵工長同工下長ハ砲兵一等軍曹同二等軍曹ニ輜重兵蹄鐵工長同工下長ハ輜重兵一等軍曹ニ同シ

○勅令

明治廿三年二月十二日

朕海軍糧食條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十四號

海軍糧食條例

- 第一條 海軍糧食ハ艦船營舍學校病院監獄ニ在ル軍人軍屬ニ給スルモノトス
- 第二條 海軍糧食ハ左ノ量額ヲ以テ最上限トシ每一週間每一人ニ之ヲ給ス
  - 麵 包 一貫二百六十匁
  - 鳥獸魚肉類 九百二十匁
  - 穀類 九百匁

乾物野菜類 一貫四百匁  
 粟焙麥類 四十二匁  
 砂糖 百四十匁  
 醬油酢油類 四合  
 鹽 五十匁  
 胡椒芥子類 四匁  
 凝脂 三十匁

第三條 戰時若クハ事變ノ際ハ糧食ノ週額三分ノ一以內ヲ増給ス  
 第四條 傷痍疾病ニ罹ル者ニハ其症狀ニ應シ第二條ニ掲クル糧食ノ幾分ヲ滋養食品ニ代ヘ給スルモノトス  
 第五條 非常ノ勞働ヲ爲シ若クハ衛生上必要トスルトキハ第二條ニ掲クル糧食品目ノ外ニ每一日每一人ニ火酒六匁以內ヲ給ス  
 第六條 食卓組合ヲ定メ下士卒ニ糧食ヲ給スルニ當リ組合員五人以上アルトキハ五人毎ニ其內一入分ノ量ヲ食事ノ度數ニ應シ現金ニ代ヘ給スルコトヲ得  
 第七條 左ニ掲クル場合ニ於テハ食事ノ度數ニ應シ現金ヲ給シ糧食ヲ自辨セシムルコトヲ得  
 一 艦船營内ニ於テ准士官以上各別ニ炊スルトキ  
 二 生徒ニ外泊ヲ命シタルトキ

三 生徒下士卒從僕刺烹夫ニ休暇ヲ命シタルトキ  
 四 糧食ヲ配給スルコトヲ得サルトキ

第八條 第六條及第七條ニ依リ支給スル金額ハ前三年間支給セシ食料ノ平均價額ヲ以テ之ヲ定ム  
 第九條 貯藏ニ堪フヘキ糧食品ハ戰時事變及航海ノ準備トシテ艦船定員ニ應シ六ヶ月以內ノ量額ヲ貯藏スヘシ  
 第十條 本條例施行ノ細則ハ海軍大臣之ヲ定ム  
 第十一條 本條例ハ明治廿三年四月一日ヨリ施行ス

○勅令  
 朕海軍在外國學生學資金規則ヲ裁可ス  
 御名 御璽  
 明治廿三年二月十二日  
 勅令第十五號

海軍在外國學生學資金規則  
 第一條 在外國學生ニハ修學ノ難易ニ應シ別表ニ依リ學資金ヲ給ス  
 第二條 在外國學生在官者ナルトキ若クハ在官者ニシテ外國軍艦ニ乗組ミタルトキ別表ノ年額ニテ不足スル場合ニ限り年額二千五百匁以內ノ學資金ヲ給スルコトヲ得

第三條 本則ニ關スル支給細則ハ海軍大臣之ヲ定ム  
 第四條 本則ハ明治廿三年四月一日ヨリ施行ス

別表

國名	歐	米	洲	各	國	亞	細	亞	洲	各	國
等級	一	等	二	等	三	等	四	等	五	等	一
年額	千四百圓	千二百圓	千	圓	八百圓	六百圓	四百圓	七百圓	六百圓	四百圓	五百圓
	四百圓	三百圓			四百圓	三百圓			三百圓		

○遞信省告示第二十二號 明治二十三年二月十二日

町村制實施ノ爲メ新ニ分合シタル町村ノ區域ハ郵便局配達受持區域ト同シカラサルモノ數多有之就テハ郵便物ノ表書宛名人ノ住所ニ新町村名ト番地ノミ記載スルトキハ其地ニ就クニアラサレハ甲乙郵便局中孰レノ受持區ニ屬スヘキカヲ豫知スル能ハス取扱上手數ヲ童子自然到達遲延ヲ生マルモノアリ依テ郵便物差出入ニ於テハ一層注意ヲ加ヘ當分ノ中新町村名ト番地ノ外必ス其大字ナル舊町村名ヲモ記載スヘシ

○縣令第八號

明治廿三年二月十五日

明治二十二年(六月)縣令第五十一號末項但書ヲ削除ス

○海軍省令第三號

明治廿三年二月十四日

明治廿二年(六月)省令第三號海軍志願兵家族扶助金支給規則中左 並改正ス

第三條中「毎月末日」ノ下ニ「十二月ハ廿五日」ノ割註ヲ加フ

第四條 准士官ニ昇級シタルトキハ辟令書拜受ノ日マテ免官免役セラレ死亡シ若クハ現役ヲ退

キタルトキハ其當日マテ前條ノ支給定額ニ拘ハラヌ實際支給スヘシ

第七條中「収禁」ノ下ニ「拘留」ニ字ヲ加ヘ「之ヲ支給セス」ノ下ニ「但無罪免訴若クハ無罰トナ

リタルトキハ之ヲ追給スヘシ」ノ二十五字ヲ加フ

第九條 家族扶助金ハ所轄廳ニ於テ本人ニ渡シ官費ヲ以テ其家族ニ送附ス但家族ヨリ請願アル

トキハ本人ニ下附スヘシ

第十二條中「家族ニ異動アルトキハ」ヲ「家族ニ異動アルトキ若クハ轉居轉籍シタルトキハ」ト改ム

○農商務省令第二號

明治廿三年二月十四日

明治六年工部省第五號達同十七年同省第五號達及同十八年同省第三號達ヲ廢ス

○陸軍省告示第三號

明治廿三年二月十五日

本年四月ヨリ觀音崎トノ關及對馬ヘ工兵方面支署ヲ置ク

○縣令第九號

明治廿三年二月十七日

明治二十二年(十二月)縣令第六十七號中「何人タリトモ」ノ六字ヲ「醫師藥種商製藥者ヲ除クノ外」ト改メ及ヒ賣買授受スル「者」ヲ「者」ト改ム

○法律

明治廿三年二月十五日

朕明治廿二年度會計特別整理ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十一號

- 第一條 明治廿二年度ヨリ翌明治廿三年度へ轉遷ノ際現行會計法規ニ據リ明治廿二年度ニ屬スヘキ歳入歳出ハ左ノ區分ニ據リ年度所屬ヲ定ムヘシ
  - 第一歳入ハ明治廿三年三月卅一日マテニ現金ヲ金庫ニ納付濟ノモノヲ以テ明治廿二年度ノ所屬トシ其四月一日以後ニ納付スルモノハ總テ明治廿三年度ノ所屬トス
  - 第二歳出ハ明治廿三年三月卅一日マテニ仕拂切符ヲ發スルモノヲ以テ明治廿二年度ノ所屬トシ其四月一日以後ニ支出スルモノハ總テ明治二十三年度ノ所屬トス
- 第二條 明治廿二年度ノ歳計剩餘ハ會計法第二十條ニ準據シ總テ明治廿三年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ
- 第三條 明治廿二年度ニ於テ官廳ニ交付シタル現金ニシテ明治廿三年三月卅一日ニ仕拂殘トナリタルモノハ總テ明治廿三年度ノ歳入ニ納付スヘシ
- 第四條 現行會計法規ニ據リ明治廿二年度ニ屬スヘキ經費ニシテ明治廿三年三月卅一日前ニ仕拂切符ヲ發シ難キモノハ其定額ヲ明治廿三年度ニ繰越シ整理スヘシ但本規則第六條ニ據リ繰越スモノハ此限ニアラス

第五條 前條ニ據リ繰越ヲナサントスルトキハ會計規則第五十七條ニ據リ繰越計簿ヲ以テ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

前項繰越計簿ニハ各債主毎ニ金額ヲ區分シ債主ノ氏名及仕拂切符發行遲延ノ事由ヲ示スヘシ但國債元利ノ繰越計簿ニハ債主ヲ區分セス公債ノ種類ヲ區分シ仕拂遲延ノ事由ヲ示スヘシ

第六條 明治廿二年度ノ豫算定額ニシテ會計法第廿一條第廿二條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準據シテ明治廿三年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條 前條ニ據リ繰越ヲナサントスルトキハ會計規則第五十七條第百五十八條ノ手續ニ準據スヘシ

第八條 明治廿二年度豫算ノ繰越ニ係ル歳入歳出ハ明治廿三年度所屬ノ分ト明ニ區分ヲ立テ之ヲ整理スヘシ

第九條 大藏大臣ハ本規則第四條第六條ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第十條 明治廿二年度ノ經費ニシテ明治廿三年一月一日以後ニ仕拂切符ヲ發シ同年三月卅一日マテニ現金ノ仕拂了ラサルモノハ會計規則第四十七條ニ準據シ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シ明治廿三年四月一日以後滿五ケ年間ハ仕拂切符所有者ノ請求ニ應シ金庫ニ於テ仕拂フヘシ

第十一條 明治廿二年度以前ノ國債元利息給ノ仕拂元金及明治十八年度以前ノ經費ニ係ル引出切符ニシテ明治廿三年三月卅一日マテニ債主ニ仕拂了ラサルモノハ會計規則第四十七條ニ

準據シ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シ整理スヘシ

○農商務省令第三號 明治廿三年二月十七日

明治廿年(十二月)省令第四號ニ業組合規則第七條中「東京」ヲ「全國便宜ノ地」ト改ム

○大藏省訓令第七號 明治廿三年二月十七日 北海道廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年大藏省令第一號國稅滯納處分法施行細則並四號第五號様式納付書ノ儀三三年度以降ハ本年大藏省令第三號國稅徵收法施行細則第四號様式ニ準シ年度科目ノ次行へ收入官吏官氏名扱収稅部向地出張所ノ文字ヲ記入セシムヘシ

○內務省告示第七號 明治廿三年二月十四日

藥劑師試驗受験人心得左ノ通相定ム

藥劑師試驗受験人心得

第一條 藥劑師試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條 藥劑師試驗ヲ受ケント欲スルモノハ明治廿二年(三月)內務省令第三號藥劑師試驗規則

第四條ニ據リ左記書式ノ願書ヲ居住ノ地方廳へ差出スヘシ

第三條 藥劑師試驗願書ハ許可ノ指令ヲ付セサルニ付該出願者ハ試驗舉行ノ期日四日前ニ受験地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地ニ廳ニ届出ヘシ

願書式

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏

名

生年月

右

氏

名印

市長(三府ハ區長)若シハ町村長(市町村制ヲ實施セサル地方ハ戶長)

氏

名印

內務大臣宛

明治二十三年二月十八日

○宮城縣縣令第十號

流行性感胃(インフルーエンザ)ヲ診察シタル醫師ハ其患者ノ住所氏名職業年齡發病並ニ初診ノ月日病症ノ輕重徵候(全治及死亡ハ經過ノ大要)ヲ記載シ速ニ縣廳ニ届出ツ可シ

○農商務省訓令第六號

明治廿三年二月十五日

北海道廳 府縣

當省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收順序左ノ通相定メ明治廿三年四月一日ヨリ施行ス但豫算ニ關スル事項ニ限リ明治二十四年度ヨリ本順序ニ據ル

農商務省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收順序

第一條 農商務省所管免許料手數料鑛山借區稅ノ徵收ハ此順序ニ據リ北海道廳府縣廳ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第二條 收入豫算ハ明治廿二年三月閣令第十二號歲入歲出豫算概定順序及同年四月大藏省訓令第二十一號様式ニ據リ調製シ前々年度二月廿八日迄ニ農商務省ヘ送付スヘシ

第三條 歲入概算月額金庫區分表ハ明治廿二年十二月大藏省訓令第七十五號ニ據リ調製シ毎年度歲入概算書ト共ニ農商務省ヘ送付スヘシ

第四條 農商務省ハ豫算概定ニ基キ各目ノ金額ヲ達スルモノトス

第五條 収納取扱方ハ明治廿二年十一月大藏省訓令第六十六號諸收入収納取扱順序第三條以下ノ各條ニ據ル但毎月收入總報告書ハ其翌月十五日迄ニ農商務省ヘ送付スヘシ

第六條 過誤納金ヲ發見シ其拂戻シヲ要スルトキハ下戻計算書ヲ作り之ヲ農商務省ヘ送付スヘシ

○勅令  
朕對兵團條例中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
御名 御 璽

勅令第十六號  
海兵團條例中左ノ通改正追加ス

第一條 海兵團ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ艦團隊其他各部定員ノ補缺ニ充ツヘキ現役下士卒ヲ教育訓練シ軍港内ノ守衛ヲ要スル場所ニ守兵ヲ派出シ新兵ヲ徵募シ豫備兵後備兵ヲ招集スル所トス

海兵團ハ所屬鎮守府ノ名ヲ冠シテ某海兵團ト稱ス

第二條中「乘艦」ヲ「艦隊廳ノ勤務」ト改ム

第三條中「一部若クハ」ノ五字ヲ刪除ス

第四條 海兵團ノ職員ハ左ノ如シ

- 團長 一人 大佐
- 副長 一人 少佐
- 分隊長 若干人 大尉
- 徵募官 二人 大尉
- 分隊長 若干人 少尉
- 機關長 一人 機關少監
- 機關士 若干人
- 軍醫長 一人 軍醫少監
- 軍醫 若干人
- 主計長 一人 主計少監

主計 若干人

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

分隊長ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ニ從事ス

第十一條中「機關士ハ」ノ下ニ「機關部員ノ部長ト爲リ」ノ十字ヲ加フ

第十四條中「給與」ノ下ニ「及庶務」ノ三字ヲ加フ

○宮城縣告示第九號

明治廿三年二月廿日

明治廿二年(三)法律第十號藥品營業並ニ藥品取扱規則第三十八條監視員ノ攜帶スベキ證票ハ左ノ如シ

紙製 曲尺二寸二分

表 藥品監視員之証

甲六十一

裏

縣 名

印 廳

○大藏省訓令第八號

明治廿三年二月十九日

府 縣(沖繩縣ヲ除ク)

一定ノ納期アル各種ノ國稅ニシテ其期日內皆納ニ至ラサルモノアルトキハ其實況及處分費等別表書式ニ據リ報告書ヲ調製シ納期後日數五十日以内主稅局ヘ送付スヘシ  
但本年一月納期ニ係ルモノニ限り來ル三月卅一日迄ニ報告スヘシ

明治何年何月中徴収スヘキ國稅滯納處分施行實況報告表

種 目	各 稅 人 員	人 員 計	稅 額
納稅期限ヲ過キ完納セサルモノ			
徴收法第十三條ノ報告ヲ受ケタルモノ			
督促令狀ヲ發シタルモノ			
財産差押命令書ヲ發シタルモノ			
命令書ヲ發シタル後財産差押著手以前ニ完納シタルモノ			
財産差押後賣却公告著手以前ニ完納シタルモノ			
財産賣却ノ公告ヲナシタルモノ			
財産賣却ヲ決行シタルモノ			
財産ヲ買上ケタルモノ			
處分法第九條ニ依リ完納又ハ代納シタルモノ			
處分法第五條ニ係ルモノ			

凡例

- 一本表ハ地租及酒造、醬油、烟草、菓子、賣樂等ノ各税、牛馬賣買免許税、船車税、度量衡税等ニシテ其納期中完納セサルモノニ對シ處分シタル結果ヲ記入スヘキモノトス
- 一各税人員ノ欄ヘハ一税目限、其頭字ト不納人員ヲ記入スヘキモノトス（假ヘハ地五〇、酒造五、醬油五、烟製三、菓小一〇、船五〇ト記スルカ如シ）
- 一税額ノ欄財産賣却ノ公告ヲナシタルモノ、財産賣却ヲ決行シタルモノ、財産ヲ買上ケタルモノ、ノ三項ニ該當スル區ヘハ各其滞納税額ヲ記入スヘキモノトス
- 一同上ノ欄末項ノ處分法第五條ニ係ルモノトアル區ヘハ官ノ損失ニ係ル税額ヲ記入スヘキモノトス

一處分法第四十條ノ如キ場合アリテ本表調製ノ期日迄ニ結了セス隨テ表中記入ノ員數確定セサルモノアルトキハ見込ヲ以テ其人員税額ヲ記入シ其要領ヲ備考ニ摘記スヘキモノトス

明治何年何月中徴収スヘキ國稅滞納處分費報告表

費目	處分費額	處分費ノ内收入額	官ノ損失額
督促令狀手数料			
差押調書及賣却調書調製費			
滞納又ハ其債主若シハ負債者ニ對スル通信費			

計	公費	訴訟ニ要セシ諸費
評價人看守人又ハ競買人ノ給料		
差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要セシ諸費		
公告費		
訴訟ニ要セシ諸費		

凡例

- 一處分費額ノ幾分ヲ收入シタルモノアルトキハ先ツ督促令狀手数料ノ額ヲ收入額ニ算入シ自餘ノ額ヲ他六項内ノ收入額ニ算入シテ記載スヘキモノトス
- 一事放アリテ本表調製ノ期日迄ニ處分結了セス隨テ表中記入ノ金額確定セサルモノアルトキハ已ニ支出シタル金額ハ勿論將來支出ヲ要スヘキ見込額ヲ併記シ其之レヨリ收入スヘキ金額モ亦見込ヲ立テ各欄ニ合記シ更ニ之ヲ内何程ト腹書スヘキモノトス

明治廿三年二月廿一日

○縣令第十一號  
 明治二十年（六月）縣令第五十五號 廟園芥溜下水取締規則中仙臺市及牡鹿郡石卷在來ノ廟園芥溜下水改造期限ヲ延期シ明治廿五年七月限リトス

明治廿三年二月廿一日

○大藏省令第四號  
 今般法律第十一號ヲ以テ廿二年度會計特別整理ノ件公布相成候ニ就テハ廿二年度ノ歲入豫算ニ



編入シタルモノニシテ本年三月卅一日迄ニ收入ヲ了セサル金額ヲ廿三年度ニ於テ收納セシモノ  
、整理取扱方左ノ通り之ヲ定ム

第一條 明治廿三年度所屬ノ徵稅令書及ヒ納額告知書ヲ發シタルモノニシテ現金ヲ本年三月卅  
一日マテニ金庫ヘ收納セサルモノハ該令書告知書ヲ取消シ更ニ廿三年度所屬ノ徵稅令書及ヒ  
納入告知書ヲ發スヘシ

第二條 歲入事務管理廳ハ癸ニ廿三年度豫算ニ編入シタル歲入金ヲ前條ニ據リ本年四月一日以  
後ニ測定シテ徵稅令書納入告知書ヲ發シタル場合ニハ其科目金員事由ヲ收入官吏ニ通知スヘ  
シ

第三條 歲入事務管理廳及ヒ收入官吏ハ癸ニ廿三年度豫算ニ編入シタル歲入金ヲ本年四月一日  
以後ニ徵收シタルトキハ適宜ニ補助簿ヲ設テ該科目金員ヲ記載スヘシ(廿三年度ノ歲入簿  
及ヒ收入簿ノ登記ヲ爲スハ會計規則ノ通りタルコト勿論ナリトス)

第四條 收入官吏ハ前條補助簿ニ據リ明治廿二年大藏省令第十一號第四號書式ニ準シタル歲入  
計簿ヲ製シ翌月七日迄ニ之ヲ事務管理廳ニ送付スヘシ

第五條 歲入事務管理廳ハ前條ニ據リ收入官吏ヨリ送付スル所ノ歲入計簿書ニ據リ毎月歲入總  
計簿書ヲ調製シ翌月中ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

○内務省訓令第五號

明治廿三年二月廿日

北海道廳 府縣

明治廿二年三月當省訓令第六號藥用阿片受拂手續第二項ノ次ハ左ノ一項ヲ追加ス

一 北海道廳ハ阿片ヲ内務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉管トシテ元受ヲナシ其保管及責任  
ハ物品會計規則ニ依ル

○大藏省訓令第九號

明治廿三年二月廿日

北海道廳

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

印紙類會計官吏身元保證金取扱方左ノ通心得ヘシ

一 印紙類會計官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ北海道  
廳長官府縣知事ニ申出其認可ヲ受クヘシ

一 北海道廳長官府縣知事ハ前項ノ認可ヲナシタルトキハ其旨大藏大臣ニ報告スヘシ但本年四月  
一日在職官吏ノ申出ヲ認可シタルモノハ本年四月十五日マテニ取纏メ之ヲ報告スヘシ

一 印紙類會計官吏本年勅令第四號第二條但書ニ依リ身元保證金ヲ納付スルモノ、情願、府縣知  
事ニ於テ取纏メ願書ハ留メ置キ本年三月五日限り一人別ニ納付金額期限ヲ記シタル摘要書ヲ  
大藏大臣ニ送付シ其認可ヲ稟請スヘシ

一 印紙類會計官吏會計規則第百二條第二項ニ依リ保證人ヲ立テ身元保證金ノ全部又ハ一部ノ免  
除ヲ請求スルノ情願ハ府縣知事ニ於テ取纏メ願書ハ留メ置キ其都度一人別ニ身元保證金額及  
保證人ノ資産見積價格ヲ記シタル摘要書ヲ大藏大臣ニ送付シ其認可ヲ稟請スヘシ

○大藏省訓令第十號

明治廿三年二月廿日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十七年(十二月)當省第八十九號達地租ニ關スル諸帳簿樣式別冊ノ通更正ス  
(別冊ハ當省主稅局ヨリ之ヲ送付ス)

但新設帳簿ノ外ハ現存帳簿ノ使用ヲ終リ新規調製ノ際ヨリ本様式ニ據ルヘシ

○大藏省訓令第十一號 明治廿三年二月廿一日 北海道廳 府縣

會計規則第卅三條但書集合仕拂命令ニ添付スヘキ各債主ノ金額氏名表書式經常歲出第一部恩賞  
諸祿ノ仕拂ニ係ルモノハ左ノ通心得ヘシ

集合仕拂命令第何號金額氏名表

(款)何々(項)何々

一金何圓

何之誰外何名

事由何々

內譯

金何圓

何之誰

金何圓

何之誰

金何圓

何之誰

以上

○文部省訓令第三號 明治廿三年二月十九日 北海道廳 府縣

當省主管教科用圖書檢査手数料學校教員學力試驗手数料及同免許狀授與手数料收納ノ事務ヲ委任候條廿二年十一月大藏省訓令第六十六號ニ據リ取扱収入總報告書ハ當省へ差出スヘシ  
但廿三年四月一日ヨリ施行ス

○法律 明治廿三年二月廿一日

朕海軍刑法中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十二號

海軍刑法中左ノ通改正追加ス

第十五條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但此刑法及普通刑法陸軍刑法ノ禁錮ニ處シ職役ヲ免セサル者ハ工錢ヲ與フルノ限ニ在ラス

第五十條ニ左ノ一項ヲ追加ス

豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處罰スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第百十六條ニ左ノ一項ヲ追加ス

軍人某地ニ滞在スヘキコトヲ命セラレ擅ニ其地ヲ離レ十日ヲ過キタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十條中「若クハ非職ノ軍人徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到著」ヲ「兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ト改ム

第百廿一條中「新募ノ兵徵集ノ命ヲ受ケ故ナク到著」ヲ「徵兵募兵故ナク徵集」ト改ム

第百卅四條ニ左ノ一項ヲ追加ス

軍人故ナシ發艦ノ期ニ際レタル者ハ其經過日數ヲ問ハス逃亡ト爲シ前條ノ例ニ從ヒ其四人以上相黨與シタル者ハ本條ノ例ニ從テ處斷ス

○大藏省告示第八號 明治廿三年二月廿一日

八幡第四十七國立銀行備明治廿三年二月廿四日ヲ以テ東京市京橋區和泉町二番地ニ支店ヲ設置ス

○大藏省告示第九號 明治廿三年二月廿四日

一起業公債證書額面百五十圓

一六分利付金祿公債證書額面五万三百五圓

一七分利付金祿公債證書額面三十二万四千七十五圓

右ハ二十年(三月)大藏省告示第廿九號ニ依リ廿一年十二月ヨリ本年一月迄ニ日本銀行ニ於テ整理公債證書ト引換タリ

但整理公債證書額面ニ滿サル端數アルハ當籤證書ハ合算シテ交換セシモノアルニ由ル

○大藏省告示第十號 明治廿三年二月廿四日

一二十年發行整理公債證書額面二万九千三百圓

内

七百八十圓 大藏省告示第二十九號ニ據リ引換發行ノ分

二万八千五百廿圓 當籤償還元金代リトシテ發行ノ分

一廿一年發行整理公債證書額面九百九十二万二千八百圓

内

五万五千四百四十圓 大藏省告示第廿九號ニ據リ引換發行ノ分

九百八十六万七千六百六十圓 當籤償還元金代リトシテ發行ノ分

一廿二年發行整理公債證書額面三百三十一万千八百圓

内

三十一万八千六百十圓 大藏省告示第廿九號ニ據リ引換發行ノ分

二百九十九万三千百九十圓 當籤償還元金代リトシテ發行ノ分

右ハ二十一年十二月ヨリ本年一月マテ債主ノ請求セシモノニ對シ發行セリ

○大藏省訓令第十二號 明治廿三年二月廿一日 北海道廳 府縣

明治廿三年度以降恩賞諸祿ノ仕拂ハ明治廿二年七月勅令第八十九號ニ據リ仕拂命令ヲ北海道廳長官府縣知事ニ委任ス其取扱方法ハ左ノ通り之ヲ定ム

恩賞諸祿仕拂取扱順序

第一條 恩賞諸祿ノ仕拂ヲ要スルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ仕拂期月ノ三十日前マテニ第

一號書式ノ支給金額明細書ヲ製シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第二條 恩賞諸祿中一時賜金給助金賑恤金等ノ仕拂ハ其仕拂ヲ要スル毎ニ第一號書式ニ準シ支

給金額明細書ヲ製シ之ニ履歷書ヲ添ヘ(賑恤金ノ仕拂ニハ履歷書ヲ要セス)大藏大臣ニ差出ス

ヘシ但内閣及各省院所屬ノ一時賜金給助金等ニ係ル履歷書ニハ本人ノ現住地ヲ詳記スヘシ

第三條 大藏大臣ハ第一條若クハ第二條ノ明細書ニ據リ北海道廳長官府縣知事ニ任拂委任ノ命令ヲ發ス

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ任拂委任ノ命令ヲ受ルトキハ會計規則第卅二條ヨリ第卅五條マテノ手續ニ據リ任拂命令ヲ發スヘシ

會計主務官ハ會計規則第卅六條ヨリ第卅八條マテノ手續ニ據リ任拂ヲ取扱ヘシ

第五條 恩賞諸祿ノ任拂ヲ爲レタルトキハ會計主務官ハ會計規則第四十九條ノ支出報告書ニ第二號書式ノ内譯明細書ヲ添ヘ大藏大臣ニ差出スヘシ

第六條 恩賞諸祿中會計規則第六十條ニ據リ過年度ノ支出ヲ要スルモノアルトキハ第一條若クハ第二條ニ準ス

第七條 恩賞諸祿仕拂以前ニ於テ減額スヘキモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ第三號書式ノ減額報告書ヲ製シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第八條 恩賞諸祿中誤拂又ハ過渡金等アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ第四號書式ノ歳入調書ヲ製シ之ヲ大藏大臣ニ差出シ同大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 會計主務官ハ毎年度經過後會計規則第九十五條ニ準シ恩賞諸祿ノ計算書ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第十條 年金恩給ノ受領者其交付期節ニ臨ミ他ノ管下ヘ移轉シタルトキハ轉換先ノ地方廳ニ通報シ該廳ヨリ年金證若クハ恩給證書及生存證書檢閲濟ノ報告ヲ得テ後チ送金ノ手續ヲ以テ年金若クハ恩給金ヲ交付スヘシ

(第一號書式)

明治何年度  
何年何月分  
經常歳出第一部恩賞諸祿  
支給金額明細書

(用紙美濃紙) 以下書式中「内ハ號モ朱書  
(渡期節ノ異ナルモノハ別表ニ調製スヘシ)

何 廳

(表紙)

圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘			
			60	00	00						
			60	00	00	120	00	00			
						50	00	00			
								170	00	00	
						50	00	00			
						50	00	00			
						50	00	00	150	00	00
						25	00	00			
						15	00	00			
						25	00	00			
						15	00	00	80	00	00

沖繩縣諸祿

沖繩縣金祿 仕拂場所某金庫  
 士族金祿 姓名 領地高年額100圓  
 此何期分 50000  
 " 姓名 知行高年額100圓  
 此何期分 50000 100000

沖繩縣社祿 仕拂場所某金庫  
 役知 名役 年額50圓  
 此何期分 25000  
 役俸 名役 年額50圓  
 此何期分 25000

沖繩縣寺祿 仕拂場所某金庫  
 役知 役名姓名 年額50圓  
 此何期分 25000  
 役俸 役名姓名 年額50圓  
 此何期分 25000  
 飯米 役名姓名 年額50圓  
 此何期分 25000 225

明治何年度歳出ノ内何年何月中支出ヲ要スルモノ書面  
 之通ニ候也

明治何年何月何日  
 何廳長官氏名印  
 大藏大臣宛

明治何年度  
 何年何月中  
 經常歲出第一部恩賞諸祿  
 支出報告内譯明細書

(第二號書式)

(用紙美濃紙)

何 應

恩賞諸祿  
 賞勳年金 (金額ノ多キ分ヨリ順次掲) (載スヘシ以下之レニ準ス)  
 終身年金 仕拂場所某金庫 年額120圓  
 勳何等何額 姓名 此何期分  
 勳何等何額 姓名 年額120圓  
 勳何等何額 姓名 此何期分  
 勳何等何額 姓名 年額100圓  
 此何期分  
 文官恩給 仕拂場所某金庫 年額100圓  
 退官給 姓名 此何期分  
 終身恩給 姓名 年額100圓  
 傷庚疾病恩給 姓名 此何期分  
 扶助料 姓名 年額100圓  
 寡婦扶助料 此何期分  
 陸軍恩給 (海軍恩給モ) (此式ニ倣フ)  
 退職給 仕拂場所某金庫 年額100圓  
 終身恩給 姓名 此何期分  
 扶助料 名姓 年額100圓  
 寡婦扶助料 新規下賜ニ依リ何年何月何日ヨリ何月何日ニ至ル分  
 舊令退役給 姓名 年額100圓  
 終身恩給 此何期分  
 舊令扶助料 姓名 年額100圓  
 寡婦扶助料 何年何月何日何々ニ依リ何月何日マテノ分

明治何年度  
經常歳出第一部恩賞諸祿  
減額報告書

(第三號書式)

(用紙美濃紙)

何 應

科 目	仕拂命令 委任金額		
	圓	錢	厘
恩賞諸祿 文官恩給 退官給 委任命令年月日	500	00	0
一時賜金 委任命令年月日	100	00	0
陸軍恩給 扶助料	0		

仕拂金額	仕拂未濟 及減額			事 由		
	圓	錢	厘			
400	00	0	70	00	0	終身恩給何年第何期分姓名何年 何月何日ヨリ所在不分明其地何 ヲノ事故ニ依リ仕拂未濟 同上姓名何年何月何日奉職何年 何月何日ヨリ俸給ヲ受領其他何 ヲノ事故ニ依リ減額報告書發送 ノ分 委任金額ニ對シ差違ヲ示ス爲メ (ニ支拂未濟及減額ヲ掲クルモノ) トス  何何月年何日仕拂委任命令高何 山ノ内何年何月何日失踪其他何 ヲノ事故ニ由リ某分仕拂未濟ノ 處復歸又ハ事故解融ニ由リ仕拂 タル分 前回ノ明細書仕拂未濟額ヲ更ニ (仕拂ヒタルトキハ此例ニ準シ區 分ヲ要ス)
			30	00	0	

(表紙)

(表紙)

明治何年度  
經常歲出第一部恩賞諸祿  
誤拂(過渡)金額歲入調書

(第四號書式)

(用紙美濃紙)

何 廳

(表紙)

仕拂命令委任額減

恩賞諸祿

賞勳年金

終身年金

勳何等何類 姓名 年額 100

第何期分何月何日付仕拂命令委任  
額若干口ノ内何年何月何日何々ノ  
事由ニ依リ同日又ハ前日迄支給何  
日ヨリ減額(最前仕拂ノ節指定ノ  
仕拂場所ヲ記入スヘシ以下同シ)

何々

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

仕拂命令委任額減	
額	減
2778	
0	2778
	2778

明治何年何月何日  
何廳長官氏名印  
大藏大臣宛



誤拂(過渡)金額

恩賞諸祿  
 官恩給 姓名 年額 100圓  
 官給 給 若  
 終身恩給 姓名 年額 100圓  
 若何期分何月何日付仕拂委任命令額若  
 干圓ノ内己ニ仕拂濟ノ内何年何月何日  
 何々ノ事由ニ依リ同日マテ支給何日ヨ  
 リ過剩某所金庫へ納入スヘキ分

一時賜金  
 五年以上奉職退官者賜金

圓	錢	厘	圓	錢	厘
5555					
2300			7585		
			7	855	

明治何年何月何日  
 何廳長官氏名印  
 大藏大臣宛

○農商務省訓令第九號  
 明治廿三年二月廿二日  
 府縣(沖繩縣ヲ除ク)  
 從來官有山林原野ヲ開墾牧畜ノ爲メ貸下ケ成功ノ後拂下クヘキ豫約ノ分左ノ雜形ニ據リ來五月  
 三十日限り届出ツヘシ

國	郡	村	大字	字	地目	許可 期 限 段 段 別	既或 墾或 牧畜 種 類	豫定頭數	現在頭數	素地代金 一段歩當	借地人名

○大藏省訓令第十三號  
 明治廿三年二月廿一日  
 北海道廳 府縣

○大藏省訓令第十四號  
 明治廿三年二月廿一日  
 府縣

明治十九年(四月)大藏省訓令第三號ハ自今廢止ス

明治廿三年度當省所管經常歲出内國稅徵收費及臨時歲出土地臺帳調製費科目左ノ通之ヲ定ム

款	項	目	節
內國稅徵取費	俸給及諸給		
		收稅長俸給	
		判任以下俸給	
		收稅屬	
		見習	
		(備員)	
		非職俸給	
		何官	
		死亡賜金	
		何官	
		所得稅調查委員手當	
		何官	

		惠與	
		(官吏賞與)	
		死傷手當	
		修繕費	
		各所修繕	
		市町村交付金	
		市町村交付金	
		滯納處分費	
		滯納處分費	
		差押調書及賣却調書調製費	
		通信費	
		評價人看守人及競賣人給料	
		差押物件運搬保管及賣却費	





土地臺帳調製費											舟船
	土地臺帳調製費										雜品費
		備員俸給									
		備人料									
		雜費									
						器具					
						用紙					
						文具料					
						印刷費					
						製本費					
						薪炭油類					

						郵便電信料
						運搬費
						寫字及筆入料
						家屋其他借料
						雜用品

○宮城縣訓令第四號

明治廿三年二月廿六日

郡市役所

宮城縣報告例ヲ定ルコト別冊ノ如シ

但明治廿年(三月)訓令第廿五號及全年(四月)全第四拾號ハ廢止ス(別冊ハ別ニ頒布ス)

○勅令

明治廿三年二月廿五日

朕市町村ヲシテ徵收セシムル國稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十七號

明治廿二年(三月)勅令第三十三號中市町村之ヲ徵收スヘシノ下「但菓子稅以下六項ハ隨時收入ニ係ルモノヲ除ク」ノ二十一ノ字ヲ追加ス

○大藏省令第五號

明治廿三年二月廿四日

本年二月大藏省令第四號第一條第二條ヲ删除ス

〇宮城縣令第十二號

明治廿三年二月廿六日

仙臺市田町ニ仙臺警察署田町分署ヲ設置シ管轄區畫ヲ定ムルヲ左ノ如シ

警察區畫

署名 仙臺市

管轄

町村名

片平町、大町一丁目、全二丁目、全三丁目、全四丁目、全五丁目、新傳馬町、  
名掛町、二十八番、榴ヶ岡(以上北側)仲ノ町、東一番丁、東二番丁、東三番  
丁、東四番丁、東六番丁(以上町邊ヨリ北部)川内柳町、全仲ノ坂邊、全仲  
ノ瀬、全大工町、全川前丁、全神明横丁、全新横丁、全元文倉通、全元支倉  
全盛屋町、全渡橋通、全龜岡町、全二十八町、全山屋敷、肴町、立町、元柳町、  
元材木町、木町末無、定禪寺橋町、元鍛冶町、元橋町、花村木町、駒付町、常  
盤町、又倉丁、國分町、立町、立町通、立町新町、定禪寺通、表小路、勾當臺  
龜ノ町、同心町中丁、大佛前町、外記丁、元貞敷、元寺小路、掃除丁、末無掃除丁、  
茂市ヶ坂、外記丁通、上杉山通、同心町通、中杉山通、光禪寺通、二幸杉通、  
花京院通、空堀丁、新名掛丁、長丁、長刀丁、六軒丁、新小路、北鍛冶町通、  
北一番丁、北二番丁、北三番丁、北四番丁、北五番丁、北六番丁、北七番丁、  
北八番丁、北九番丁、北山町、神子町、堤邊、北山町、堤邊、木町通、支倉邊、  
新坂通、土橋通、十二軒丁、切通、中島丁、龍崎丁、北五十八人町、角五郎丁、全  
新丁、八幡町、石切町、江戶町、覺性院丁、坊子町、伊勢堂下、半子町、宮町、  
車町、鐵砲町、小田原遺水丁、全宮町、東裏丁、全補藏丁、全車通、全山本丁、  
全裏山本丁、全金剛院丁、全廣丁、全大行院丁、全清水沼通、全高松通、全弓  
ノ町、全東丁、全牛小屋丁、全安丁通、全北一番丁通、全北二番丁通、全北三  
番丁通、

仙臺警察署 仙臺市

田町分署 仙臺市

片平丁、大町一丁目、全二丁目、全三丁目、全四丁目、全五丁目、新傳馬町、  
名掛丁、二十八番、榴ヶ岡(以上南側)仲ノ町、東一番丁、東二番丁、東三番  
丁、東四番丁、東六番丁(以上町通ヨリ南部)越路、全路地町、全六軒丁、靈  
屋下、花壇、全川前丁、琵琶首新丁、琵琶首町、良覺院丁、片平丁、元荒町、南  
町、教樂院丁、南光院丁、南町通、柳町、柳町通、北目町通、米ヶ袋、鹿ノ子  
水、全廣丁、全上丁、全中丁、全下丁、全仲ノ坂邊、全十二軒丁、全鍛冶谷前  
丁、南六軒丁、七軒丁、櫻小路、鐵砲横丁、道場小路、伊勢屋横丁、袋崎、孤小  
路、清水小路、裏五番丁、東五番丁、東七番丁、東八番丁、東九番丁、東十番  
丁、北目町、上染師町、田町、土廻、荒町、連坊小路、石垣町、弓ノ町、石名坂  
角町、堰場、南鍛冶町、河原町、新河原町、河原町東裏丁、新弓ノ町、八軒小  
路、南染師町、南石切町、南材木町、穀町、六十八町、疊屋町、五十八町、保春  
院前丁、三百人町、西新丁、東新丁、猿奉町、姉齒横丁、控木通、長町通、木ノ  
下、成山町、表柴田町、裏柴田町、元茶畑、新寺小路、二軒茶屋、八軒小路、行  
入塚、桃源院東、鍛冶屋敷

〇內務省訓令第六號

明治廿三年二月廿六日

府縣

明治廿二年度當省所管歲出科目府縣ノ款廳費ノ項器具器械費ノ目中雜器械ノ次位ヘ「標本」ノ一  
節新設ス

〇大藏省訓令第十七號

明治廿三年二月廿六日

廳 府縣

明治九年五月甲第十二號當省布達ニ掲ル變造紙幣ノ類來ル四月一日以降ハ當省記録局ヘ送納ス  
ヘシ

○正誤

法律第六號裁判所構成法第六條中必用ハ必要ノ誤

本月五日掲載縣會議員改選者氏名告示第二號發布年月日二月五日トアルハ四日ノ誤

本年(二月)縣令第三號土地ニ關スル願屆様式中左ノ通正誤ス

第一號様式末段(二頁)。(二筆以上ニ涉ルキハ總計ヲ附スヘシ)ノ肩ニ殘反別、  
、  
、  
、  
、  
此地租金、  
、  
、  
、  
ノ三行ヲ脱ス

第三號様式下段(第四頁)何々敷成、何年何月ヨリ何ケ月分月割減何年ヨリ可減分ノ同文二列及  
ヒ(第五頁)(外幾筆ニテモ云々)ハ何レモ朱書記入ノ符號○印ヲ、欄外第一項有租地ヲ免租地成  
ノ許可命ノ下ヲ得ノ二字ヲ脱シ同項中又ハ工事着手ノ下ヲ得ハ衍、第二項末段又ハ寄附御許可  
ノ五字ニ括弧ヲ脱ス

第五號様式下段(八頁九頁)丈量増ハ丈量増、同段反金、  
、  
、  
元目的田及ヒ丈量減ハ何レモ肩  
ニ○印ヲ脱シ末段(十頁)外幾筆ニテモ渾テ此例ニ依リハ做フノ誤

第七號様式(十二頁初行)郡村町村ハ郡市町村ノ誤

第九號様式(十四頁)欄外第九號様式ノ下用紙大判美濃ノ六字ヲ脱ス

第十號様式(十五頁)末段何年ヨリ何年マテ何ケ年期並ニ(十六頁初行)何年ヨリ何年マテ何ケ年  
ノ肩ニ○印ヲ脱ス

第十一號様式(十七頁)欄外第一項年斯ハ期ノ誤

第十四號様式(二十四頁)欄外第二項荒地低價年期ノ下ニ○印ヲ脱シ同項中第廿一條ノ上○印ハ  
衍

第十五號様式(二十九頁)中段。(右ノ外各種ノ各目云々)ハ名目ノ誤

第十八號様式(三十四頁九行目)反別ノ肩ニ何番ノ内第一ノ六字ヲ脱ス

第十九號様式(三十五頁)長方形ノ肩ニ○印ヲ脱シ又同形内ノ道路溝渠等云々ハ溝梁等ノ誤

去十五日掲載番号縣令第七號ノ上縣令ノ二字衍第六條監督ハ監査、第七條第十項堤島田ハ提島  
田、第十條議員ノ下右ハ各ノ誤第十二條組合ノ下ニ及ノ一字ヲ脱ス

本年(二月)縣令第四號藥種商並製藥者取締細則第十條ニ左ノ一項ヲ脱ス

前項ノ藥劑師ハ第三條第一項第五條(但書除ク)第六條及第八條ノ手續ニ從フ可シ

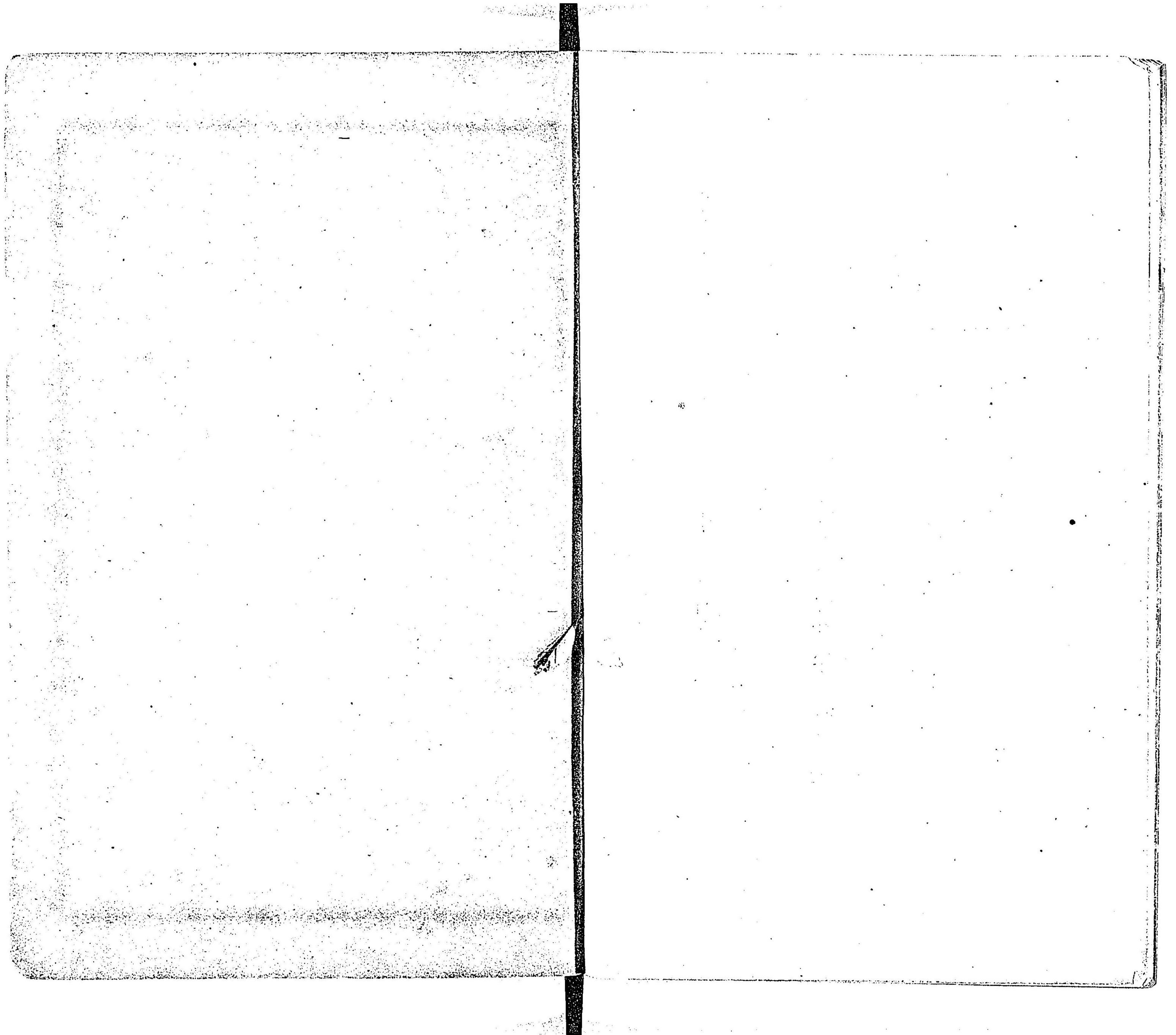
本年二月縣令第九號中左ノ通正誤ス

括弧中ノ十二月八十一日ノ誤

明治二十三年四月二十三日出版御届

宮城縣庶務課





Kilimanjaro